

我如此言ふは過言なるが如し。我勞苦せしこと彼等より多く、鞭たれしこと彼等より夥く、獄に入れらるゝこと多く、死に頻せしこと屢々なり。又我は五次猶太人に三十九の鞭を受け、三次條にて撲たれ、一次石にて撃たれ、三次破船に遭て一晝夜海底に在り。又旅路に於て、屢々河の難、盜賊の難、同邦人の難、異邦人の難、城裏の難、野中の難、海中の難、偽の兄弟の中の難等種々なる難に遭へり。又勞苦り、憂ひ、連夜眠らず、飢渴屢々食を斷ち凍ね裸なりし也。茲に言ざる他の事ありて我に迫る、即ち諸教會の憂慮なり、誰か弱りて我弱らざらん乎、誰か

礙きて我心熱せざらん乎、若し我必ず誇るべくを我弱きことを誇るべし。永遠に讃頌すべき神、耶穌基督の父、我謙らざるを知りたまふ。我ダマスに在りし時、アレクサ王に屬せる邑宰、我を執へんとて、ダマス人の邑を守れり。我筐に潜みて、牖より石垣に添ひ縋り下されて、彼の手を脱れたり、斯く誇るべきも我誇りは益なし。今は主の顯現と黙示に及むん。我耶穌基督に在る一人のものを知る、此人十四年前に撃へられて第三の天に至る（或は肉體に在りしか、或は肉體に在らざりしか我知らず、神知りたまふ。我この人を知る、或は肉體を有てりしや、或は肉

體あらざりしや我知らず、神之知りたまふ。我は云ふ、此人挈へられて天に至り、言ふべからざる言、即ち人の語り得ざる言を聞けり。我此の如き人の爲に誇るべし。我弱きこと、我艱めることの他は自ら誇らず、我若し自ら誇らんとするも、愚なる者とならず、蓋は眞ならずでは言はざるが故也。然れども人の我に見る處、我に聞く處に過ぎて、我を擬らんことを恐るゝに因りて、誇ることを止むべし。又賜りし多大の黙示に由りて、我傲ることなからん爲に、一の刺を我肉体に與ふ、即ち我傲ることなからん爲に、我を撃つ惡魔の使者なり。我之が

爲に、三次 主に之を我より離んことを求めたり。主の我に對へたまふ様、我恩惠は汝に足れり、蓋は我力は弱者に於て完くなれむなり。故に寧ろ欣びて自己の弱きに誇らん、是れ 耶蘇基督の能我に寓らん爲なり。

昇階誦

願くは萬民が主の聖名の 天主にて在ますを知らんことを、又主が全地球の上に全能者にて在ますんことを。嗚呼 天主よ、彼等を車輪の如く廻轉したまへ、風に吹き行く麥稈の如く散したまへ。

(詠唱) 主よ、主は大地を震搖したまひ、又微に之を開き

たまへり。願くは其虧所を癒したまへ。蓋大地は動搖す
れをなり、主の撰民を衛りて其敵の箭より脱れしめ給へ。

聖路加福音書 八章四節

維時大群衆色々より 耶蘇の許に奔せ集りければ、即ち譬喻もて語りたまはく、播種者其種を播きに出たり、播く時或者は道の旁に遺しに、踐れ、且天空の鳥之を啄めり。或者は石の上に遺しに、其苗出るや、潤澤なかりければ、枯たり、或者は荆棘の中に遺しに、荆棘共に滋長て之を蔽ひ塞げり。或者は沃壤に遺しに、苗出て百倍の實を結べり。此等の事を言竟りて、叫びたまはく、聴ゆ

る耳ある者は聴べし。弟子等此譬喻の何なるかを彼に問ければ、之に言たまはく、汝等は神の國の妙理を知るを允さるれども、餘人には譬喻を以てす、是は彼等が見つゝも視ず、聴つゝも曉らざらん爲なり。さて譬喻(の意味)は是の如し、種は神の言なり、道の旁に於る者どもは是れ聴く者なり、然る後悪魔きたり、恐くは彼等信じて救はれんとて、彼等の心より其言を奪ふ。石の上に在る者は、聴く時に喜んで言を受るなり、然れども根なし、暫時は信ずれども誘試の時には退縮す。荆棘の中に遺たるは〔言を〕聴し者なり、而れども去るや、今生の憂慮と

貨財と快樂との爲に蔽ひ塞がれて、實を結むざる也。されど沃壤に於けるは、正善なる心にて言を聽きて守り、忍耐を以て實を結ぶなり。

使徒信經

奉獻誦

(九 頁)

主よ、我をして主の道を踐み迷はざらしめん爲め、我足の運びを強めたまへ。御慈悲の聖耳を我に貸したまひて、我心の言を聞き給へ。主の愛憐を垂れたまへ。主に願ふ人々を心、主は常に救ひ給ふなり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、主に献げられたる犠牲をして、我等に生命を與へ、常に我等を強めしめ給へ。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四 頁)

聖躰奉舉の時の禱

(十五 頁)

聖躰奉舉後の禱

(十五 頁)

主禱文

(十七 頁)

神羔誦

百九十二

聖躰を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

(十八頁)

我は 天主の祭壇に近づかん、常に新なる歡喜を以て、我靈魂を充たしたまふ、天主に近づき奉つらん。

全能の天主、我等恭しく主に祈り奉つる。願くは主の秘蹟を以て強め給へる人々が、主の聖慮に適ふべき行為を以て、主に事へ奉つるの聖寵を得んことを、我等の主 基督に依て専心に冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○四旬節前第一主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、願くは主の我守護者なる 天主にして、又我安
 全なる庇保者に坐ますを、私の認め得んことを。蓋し我
 隠匿處、我城砦たるべきものは、單り主のみにて坐ませ
 心也。願くは主の聖名の榮光の爲め、我指導者、我牧者
 となり給へ。(詩) 主よ、我已に主に願へり、我は必ず辱
 かしめらるゝことなからん。主の義を以て我を免したま
 へ。我を救ひ給へ。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

主憐み給へ。

基督憐み給へ。

各三回

主憐み給へ。

集禱文

主よ、慈悲を垂れて我等の祈禱を聽き給へ。願くは我
 等の靈魂を、凡ての罪科の鎖より脱したまひし後、我等
 を諸の凶惡より防護り給はんことを。我等の主 耶蘇基
 督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與哥林杜人書第一 十三章一節

我兄弟よ、假令我諸の人の言語、及び天使の言語を語
 るども、若し愛なくば、鳴る銅や響く鉄の如し。假令我

預言するの賜を有し、又凡ての妙理と、諸求め得べき限
 の學術に達し、又山嶽を移すに足る底の能ある諸の信仰
 を有するも、若し愛なくを數ふるに足らざる也。假令我
 わが凡ての所有を貧人に施し、又焚かるゝ爲めに我身體
 を予すとも、若し愛なくを其事全く我に益なし。愛は寛
 忍ことをなし、愛は仁惠を施し、愛は妬まず、誇らず、驕
 傲らず、非禮を行はず、自利を求めず、何事にも怒らず、
 他人の惡を念はず、不義を喜ばず、眞理を喜び、凡ての
 事容し、凡ての事信じ、凡ての事望み、凡ての事忍ぶな
 り。愛は永久終ることなし、「然れど」預言は廢り、方言

は止み、知識も亦類るべし。蓋は我等の知る處、我等の
 預言する所は、一時の爲たるのみ。我等完全状態に在ら
 ん時は、一時の爲にのみ存する者は、凡て消失すべけれ
 ぶなり。我幼童の時は、語る處幼童の如く、識る處幼童
 の如く、慮る處幼童の如くなりしが、成人しては、幼童
 の如き凡の事を棄たり。我等今は鏡を以て見る如く、譬
 喩を以て識るが如し、然れど面を對せて見ん時は「否ら
 ず」我今は知ること完全からず、然れど其時は我知らる
 如く我知らん。夫れ此世に於ては、信仰と希望と愛と
 此三の共に在ることは眞なり、然れど最も秀でたる者は

愛是なり。

昇階誦

嗚呼 天主よ、奇異なる所爲をなし給ふは單だ主のみ、
主は其權能を異邦人の中に顯はし給へり。最強き主の臂
は、其民を救脱したまひ、イスラエルとヨゼフの子孫を
救ひ給へり。

(詠唱) 世界の人民よ、汝等の 天主を崇め、喜んで主に
事へよ、聖き喜樂を發作して主の尊前に進め。主は唯一
の 天主なるを認識へよ。我等を造れる者は天主にて、
我等自身には非るなり。我等は其人民、其棧群の羊なり。

聖路加福音書 十八章三十一節

維時 耶蘇十二弟子を挈げて、之に告たまひけらく、視
よ、我等はイエルザレムへ上る、されを人子を指して豫
言者等が書きたる處の事は悉皆成就せん、即ち彼は異邦
人に交附され、嘲辱れ、鞭撻たれ、唾せられん、而して
彼等鞭撻ちたる後、彼を殺さん、斯て彼は三日目に甦へ
らん。彼等は此等(の話を)を少も解せざりき、此語かれら
に隠れてありき、彼等は其言れたる事をも解せざりし
也。耶蘇イエリコに近づける時、適ま一箇の替者路の傍
に坐して、乞をりしが、群衆の過るを聞くや、是は何事

ぞやと問へり。人々ナザレトの耶蘇過るなりと告げれを、
 彼乃ち叫び言けるは、マウ井ドの子耶蘇よ、我を恤みた
 まへと、先だてる者等彼を叱りて黙せしめんとしたれと
 も、益す叫ぶらく、マウ井ドの子よ、我を恤みたまへと。
 耶蘇止り、命じて彼を己に携へ來らしめ、其近づけるや、
 問ふて、言たまはく、我が汝に何を爲んことを欲するや。
 彼白さく、主よ、我見ぬんことを「欲す」。耶蘇彼に言たま
 はく、汝見ることを得よ、汝の信仰汝を拯からしむと。彼
 忽ち見るを得るに至り、神を榮して耶蘇に従へり。民之
 を見るや皆神に讚美をたてまつれり。

使徒信經

奉献誦

主よ、主は祝せられ給へり。願くは主の聖訓を我に教
 へたまへ。我唇は喜で、主の會て宣べたまひし語を復言
 せり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは此祭餅が我等の罪科を消除し、主の僕の
 靈魂と肉軀を淨めて、以て此神の犠牲を有功に主に献ぐ
 るを得しめ給はんことを。我等の主耶蘇基督に依て願ひ

奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四頁)

聖躰奉舉の時の禱

(十五頁)

聖躰奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖躰を領くるを望む禱

(十八頁)

聖躰受領の時の誦

彼等は食ひ且つ飽けり。天主は彼等の希望を充たし、其願を拒みたまはず。

聖躰領後の禱

全能の天主、願くは此天の食糧に由て、我等をして諸の禍殃に對し堅固ならしめ給はんことを。我等の主 耶穌基督に依て謹で希ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

二百四

(二十四頁)

○聖灰之水曜日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主よ、主は其萬の被造物を憐みたまひ、一も其聖手に成りし者を棄て給はず。又人々を悔悛に導かんとして、其罪科を忍容び且之を赦宥したまへり。是れ主は我等の神、

我等の主にて坐ませむ也。(詩)嗚呼我天主、我を恤みたまへ、我靈魂主に信任し奉つれを、願くは我を恤みたまへ。(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

主憐み給へ。

基督憐み給へ。

各三回

主憐み給へ。

集禱文

主よ、主を信する者等に、敬虔の心を以て、此聖き大齋の公式に参り、且何ものも妨げ得ざる底の信心を以て、其生涯を畢ることの聖寵を與へたまへ。我等の主 基督

二百五

に依て一向に冀ひ奉つる。亞孟。

約耳書 二章十一節

見よ、この主が宣へる聖言を。曰く「汝等持齋ぞ、哭泣と、悲哀とに於て、心を竭して我に歸れ」と。汝等衣を裂かずして心を裂き、汝等の神なる主に歸るべし。彼は善良にして憐憫あり、忍耐にして慈悲に富み、汝等を罰せし災害を憾みたまふ者なれを也。誰か彼が或は我等に慈惠の眼を轉じ、我等を宥し、或は我等の悔悛しの際、其祝福を我等に降し、我等をして犠牲と供物とを、我等の神なる主に獻げしめ給はじと知らんや。汝等シオンにて

喇叭を吹き鳴し、大齋を命じ、公會を招集へ、衆民を集めて淨まりを命じ、老たる人を集め、幼童と哺乳兒を召集へ、新郎を其室より、新婦を其閨より呼び出せ。而して司祭及び主の奉事者等は、廊と祭壇との間に伏し泣いて言へ、主よ赦したまへ、汝の人民を赦したまへ、汝の遺業を異邦人の虐待に委せ、耻辱めに陥るを棄て措きたまふこと勿れと、異邦人の我等に對して、彼等の神は何處に在ると言ふを忍び給ふことあらんや。却て主は其遺業に對して慈惠の心を惹起し、其人民を赦したまへり。主は其人民に語げて曰はん、予汝等に穀物と酒、及び油と

豊かに贈らん、汝等之に飽くべし、手汝等をして、重ねて異邦人の虐待に委すまじと。人よ、全能なる主は宣はん。

昇階誦

嗚呼我 天主、我を恤みたまへ、我靈魂主に信住し奉るに由り我を恤みたまへ。主は我に天の援助を降したまひ、而して我は救はれぬ。主は我を足下に踏みし儕輩を罰するに、耻辱を以てし給へり。

(詠唱) 主よ、我等が犯せし罪科に由て我等を遇ひ給ふこと勿れ。我等の過失に適ふべく罰したまふこと勿れ。主よ、我等の舊罪を想ひ起し給はざれ。我等は不幸の淵に

沈みつゝ、在る者なれど、速に主の愛憐に達せしめ給へ。嗚呼我等の主なる 天主、我等を援けたまへ。主よ、主の聖名の榮光の爲め我等を救ひたまへ。主の聖名の榮譽の爲め我等の罪科を赦したまへ。

聖馬竇福音書 六章十六節

維時 耶穌其弟子等に訓て曰く、汝等禁食する時、僞善者の如く憂き容をする勿れ、彼等は禁食することの人に顯れん爲に其顔色を損へむなり。我誠に汝等に告ぐ、彼等は其報を獲たり。汝は禁食する時、首に膏をつけ、且顔を洗へ、是は汝の禁食すること人に見ぬずして、幽隠

に在す汝の父に見ねん爲なり、然らば幽隱に鑑る汝の父は汝に報いたまふべし。汝等己のために寶を地に蓄ふる勿れ、此には鏽と蠹ありて之を壞り、此には盜賊穿ちて竊ひなり。汝等己のために寶を天に蓄へよ、彼處には鏽と蠹ありて之を壞らず、彼處には盜賊穿ちて竊まざるなり、是は汝の寶の在る處に汝の心も亦在れをなり。

使徒信經

(九頁)

奉献誦

主よ、我れ主を稱揚し奉つらん、蓋し主は我を護り、我をして我仇敵の奴隸たるを許容し給はざりけれを也。主

よ、我れ主に對て呼はり、主我を愈し給へり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

徵唱禱

主よ、我等主に願ひ奉つる。願くは我等が依て以て、此聖き齋戒を始むる處の此供物を、最も有功に主に獻げ得んことを、我等の主 基督に依て只管に冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖躰奉擧の時の禱

(十五頁)

聖躰奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖躰を領くるを望む禱

(十八頁)

聖躰受領の時の誦

主の律法を晝夜に黙想する儕輩は、其時期にあたりて

好果を結むん。

聖躰領後の禱

主よ、願くは我等が拜受たてまつれる此秘蹟をして、我

等の持齋が主の聖慮に適ひ、又我等の靈魂の癒されん爲め、必要の援助を我等に得しめんことを、我等の主 基督に依て願ひ奉つる。 亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る

(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○四旬節第一主日

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始の禱

入進誦

(三頁)
(四頁)

彼れ予に願ひ、予之を諾なはん。予之を免し、且榮譽
あらしめん。又彼をして壽からしめん。(詩) 最高き避難
處に棲む處の者は、天に在す 天主の保護の下に住まら
ん。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

主憐み給へ。

基督憐み給へ。

主憐み給へ。

各三回

集禱文

主の聖會が歲毎に遵守る處の此四旬節に由て、彼を淨
め給ふ主よ、願くは主の兒女等が爲せる善行に由て、彼
等をして其持齋を以て有功ならしめんと勗むる處の者を
獲さしめ給はんことを。我等の主 基督に依て願ひ奉つ
る。亞孟。

聖保錄與哥林杜人書第二 六章一節

我兄弟よ、我等汝等に勸む、汝等神の聖寵を徒らに受くること勿れ、蓋し彼其預言者の口を藉りて言ひけらく「我好恰之時機に汝等に聽き、救靈の日に汝等を助けたり」ど。 借今や此恰好之時機は來れり、今や救靈の日は來れり、我等も亦慎みて、此職を誇らるゝことなからん様、何事にも人を躓かせず。 却て凡ての事に於て、神の役者の如く行ひつゝ、己れの忠誠を彰はすべし。 即ち患難にも、窮乏にも、苦痛にも、打擲にも、獄舎に入るにも、擾亂の時にも、勤勞にも、不眠にも、斷食にも、永き忍耐をもて貞潔を守り、知識を擴め、温和を表はし、固信を保ち、

聖靈に充たされ、偽なきの愛情を熾にし、真理の言を宣べ、神の力に扶けられ、左右に正義の武器を用ひ、又名譽、羞辱、令聞、惡評に於て、正直にして且眞誠なりども、欺騙者の如く見られ、甚ど人に知られたりども、知られざる如く認し、常に死に瀕して而も生を保ち、苛責られて而も死に至らず、悲哀に居て而も常に喜び、貧くして而も多數の人を賑はし、何の所有なくして而も萬の物を有つべし。

昇階誦

天主は、凡ての方道に於て汝等を護り、且つ傳くる處

の其天使に命じ給へり。彼等は汝等の足の石に觸れざらんやう、其手を以て擁くべし。

(詠唱) 最高き避難處に棲む處の者は、全能者の保護の下に住らん、彼は主に言はん、主は我依靠者と防衛者に在ます。嗚呼我天主、我れ主に希望を懸け奉つらんと。主は我を狩獵者の罔罟と、悪人の口より脱し給へり。彼は汝等を其蔭に庇ひ、汝等は其翼の下に希望を發見さん。其眞理は楯の如くに汝等を擁護ひ、汝等は暗夜の恐懼にも怖ざらん。白晝飛ぶ處の矢箭にも、暗中に企てる、謀計にも、悪魔の襲撃にも怖ざらん。千人は汝等の

左に、萬人は其右に倒るゝも、仇敵の箭は汝等に達すること非るべし、蓋し彼は凡ての方道に於て汝等を護り、且傳くる處の其天使に命じ、天使等は汝等の足の石に觸れざらんやう、其手を以て汝等を擁くべけれんなり。汝等は毒蛇の上をも歩み、猛獸をも踏み行かん。主は宣へり、彼其信任を我に置きたれん我之を援けん、彼我名を認めたれん我之を護らん、彼我に願ひ、我之を諾はん、患難の内には我彼と共に在らん、我之を援け且榮あらしめん、又彼をして壽長からしめ、而して之に我救靈を示さんど。

維時 耶蘇惡魔に誘試られん爲め、聖靈に野に導かれ、
 四十日四十夜禁食したりしに、後飢たり。誘試者進み寄
 て彼に言けるは、汝もし神の子ならん、命じて斯の石を
 麵餅と成らしめよ。彼答へ曰けるは、人は惟麵餅のみに
 て生くるに非ず、又神の口より出る一切の言に由ると録
 されたり。其時惡魔かれを聖京に携へ、聖殿の頂巔に立
 せて、之に言けるは、汝もし神の子ならん、自ら飛下よ、
 録して曰く、神汝の爲に其使等に命せり、彼等その手に
 て汝を捧げ、汝の足をして石に傷れざらしめんと。耶蘇
 之に言けるは、主たる汝の神を試むべからずと亦録され

たり、惡魔復彼を最高き山に携へ、世の國々ど其榮華を
 見せて、彼に言けるは、汝若し俯伏して我を拜せむ、此
 等を悉く汝に與へん。其時 耶蘇之に言けるは、サタン
 退け、主たる汝の神を拜し獨これに事ふべしと録された
 り。是に於て惡魔彼を離れ去りぬ。視よ、〔天〕使等進み
 寄りて彼に事ふ。

使徒信經

奉獻誦

主は汝等を其蔭に庇ひ、汝等は其翼の下に希望を發見
 さん、其眞理は楯の如く汝等を擁護はん。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、聖四旬節の始に際り、我等此犠牲を公に献げて
祈り奉つる。願くは我等が肉軀の糧を減しつゝ、猶我靈
魂を害すべき快樂を絶ち得るの聖寵を許與へ給はんこと
を、我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

主は汝等を其蔭に庇ひ、汝等は其翼の下に希望を發見
さん、其眞理は楯の如く汝等を擁護はん。

聖體領後の禱

主よ、願くは此聖祭の功力に依て、我等の力を恢復し、
且老たる人(罪靈に汚れた)を斥けて、此救贖の妙義の有功な

る分與に與からしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱 (二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)

彌撒後の禱 (二十四頁)



◎四旬節第二主日

彌撒拜聽前之禱 (三頁)

彌撒之始の禱 (四頁)

入進誦

主よ、主の我等に施し給ひし聖寵を想起し給へ、主の愛憐を記憶へたまへ、今は終極どころなし、嗚呼イスラエルの天主、願くは我等の仇敵をして勝利を得しめ給はざれ、我等を凡ての患難より救ひ給へ。(詩)主よ、われ我靈魂を主に捧げ奉つる。嗚呼我天主よ、われ我希望を

主に囑し奉つる。されを我は屈辱しめらるゝことなからん。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

主憐みたまへ

基督憐みたまへ。

各三回

主憐みたまへ。

集禱文

嗚呼 天主、主は我等が何の力をも有たざるを知り給ふ、されを我等の内部外部を護り給へ。願くは我等の軀を惱まし得る凡ての兇惡を防ぎ、且我等の靈魂を、凡

ての惡念より免れしめ給はんことを。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與帖撒羅尼迦人書第一 四章一節

我兄弟よ、汝等既に我等の教を受け、如何に行ひて神の聖意に適ふべきかを知りたれを、我等 耶穌基督に依りて、亦汝等に斯る方道に於て歩むべきを求めかつ勸む。願くは益々之に進まんことを。蓋し我等主耶穌基督に由て、如何なる誠を汝等に授けしかを汝等知れをなり。神の聖旨は汝等の聖なること、即ち姦淫せず、各々自己の器を得て、之を潔く貴くなして用うることを知り、神を

知らざる異邦人の如く、情慾を放恣にせず、又この事に
つきて兄弟を欺き、且害せざらんことを要めたまふ。凡
て斯る悪事を行ふ者に、主報讐をなし給ふ也。我等曩に
汝等に告げ、且證しせしが如し。夫れ神の我等を召きた
まへるは、我等の汚れたる事を行ふを要むるにわらず、我
等の主 耶蘇基督に於て聖からんことを要めたまふ也。

昇階誦

我心の懊惱は彌増せり、主よ、我を圍繞める凶惡より
免したまへ。我が凌辱められ、且艱めるを御覽し、我百
般の罪科を赦したまへ。

(詠唱) 榮光を主に歸せよ、主は善にして、其慈悲は無窮
ましませむ也。誰か主の能に由りて現はる、玄妙を語り
得ん、又誰か其總ての光榮を彰し得ん。常に不偏の法則
を守り、正義を保つ者は幸福なり。主よ、願くは主が其
民衆に灌ぎたまふ愛情に由り、我等に聖意を注め給ひて
主の救贖の援助を以て、我等を護り給はんことを。

聖馬竇福音書 十七章一節

維時 耶蘇、ペトロとヤコボと其兄弟ヨハネを伴ひ
て、別に之を高さ山に携へ給ひしが、彼等の前にて容貌
變り、其面は日の如く輝き、其衣は雪の如く白くなれり。

視よ、モイゼとエリヤ彼等に顯はれて、耶蘇と相語れり。
 ペトロ答へて 耶蘇に言けるは、主よ、我等こゝに居れるは善し、汝もし允さむ、我等三の廬を茲に造り、一つは汝に、一つはモイゼに、一つはエリヤに供せん。其言未だ畢らざるに、輝ける雲彼等を蔽へり、時に、視よ、雲より聲して曰く彼は我が意旨に善く適ふ吾が愛子なり、汝等かれに聽けど。弟子等聞て、倒れ伏し、甚だしく懼る。耶蘇進み寄りて、彼等に捫りて、曰たまはく、起さよ、怖るゝ勿れど、彼等目を翹れど、惟々耶蘇獨りの外誰をも見ざりき。山を下る時、耶蘇彼等に命じて曰く、人の子

死者の中より甦へるまで、汝等その今見たりし事を誰にも語る勿れど。

使徒信經

(九 頁)

奉献誦

我は我樂なる主の宣命を熟考し、我愛せる主の律法に雙手を擧げん。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは我等の信心を増し、且救靈を得るに功果あらん爲め、今現に供へ奉つれる犠牲を嘉し納め給はん

ことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領くるを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦 (十八頁)

嗚呼我王、我天主よ、我喚叫を聽き、我祈願の聲に聖耳を傾けたまへ。蓋しわが願ひ奉つる處の者は、惟主のみにて在ませむなり。

聖體領後の禱

全能なる 天主、我恭しく主に祈り奉つる。願くは主が其秘蹟に依て養ひたまふ所の儕輩をして、主の聖慮に愜ふべき行爲を以て、有功に主に事へしめ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○四旬節第三主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

我眼は常に主に向ふ、蓋は我を圍繞める畏の中より我

足を解き放ちたまふ者は、獨り主のみにて在ませむ也。主よ、聖眼を我に注ぎて、我を憐み給へ。蓋し我は單獨にて憫焉なる者なれむなり。(詩)主よ、我は我靈魂を主に捧げ奉つる。嗚呼我天主よ、我わが希望を主に囑し奉つる、されむ我は屈辱しめらるゝことなからん。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

主憐みたまへ。

基督憐み給へ。 各三回

主憐みたまへ。

集禱文

全能の 天主、憐憫を垂れて、我等が謙遜なる心もて
爲す處の願と祈を受け給へ。願くは主の稜威の聖手を
伸べて、我等を佑け給はんことを。我等の主 耶蘇基督
に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與以弗人書 五章一節

我兄弟よ、汝等最と愛せらるゝ兒女の如くに神に傲ふ
べし。又 基督の我等を愛して、己れを献物の如く、馨
香ある犠牲の如く神に献げつゝ、我等に代りて己れを解
したまひし如く、愛を以て進むべし。聖徒たるに適ふ如
く、奸婦及び汚穢たること、貪婪ことを互に言ふことだ

に爲す勿れ。又淫辭と浮たる言と、戯謔とを遠けよ、是
れ汝等の召辟に適はざる也。寧ろ主を讚し、主に感
謝することを阻むべし。蓋は凡て奸婦する者、汚穢たる
者、貪婪者、即ち偶像を拜む者の、基督と神の國とを嗣ぐ
こと能はざるを汝等知れむなり。願くは誰人も虚き説を
以て、汝等を誑惑すこと勿らんことを、蓋し不信者の上
に、神の怒を惹くは、此等の背規に由れむなり。是故に
何事にも彼等に與する勿れ、蓋は汝等曩日暗かりしが、今
は主に在りて光れむなり。されむ光明の兒輩の如く行ふ
べし。抑光明の結ぶ處の果は、諸の善と義と眞實とを其

中に含むもの也。

昇階誦

主よ、起ち給へ。願くは人間をして勝利を得しめ給はざれ。諸國民をして、主の尊前に審かれしめたまへ。主は我仇敵を却けたまへり、彼等は主の尊前に力無く、願て滅び失せぬべし。

(詠唱) 嗚呼天に在ます我等の 天主、我眼を昂げて主を仰ぎ奉つれり、宛も其主人の手に囑げる奴僕の眼の如く、又其主婦の手に囑げる婢女の眼の如くに、我等の眼も亦、我等を恤みたまふまで、主に囑ぎ奉つる。於乎我等を憐

み給へ、主よ、我等を恤みたまへ。

聖路加福音書 十一章十四節

維時 耶蘇惡魔を逐しが、其魔は暗啞なりき、既に惡魔を逐ひたまふや、暗啞者言ひしかを、群衆之を歎美せり。然るに其中の或者ども謂らく、彼は惡魔の長ベエルゼブブに藉て惡魔を逐ふ耳ど。また他の者等は試みて、天よりの異徴を彼に求めたり。耶蘇其思念を見て彼等に言けるは、凡て自ら分れ争ふ國は亡び、家と家分れ争ふも亦倒るべし。サタンも亦若し自ら分れ争はむ、其國争で立んや、我ベエルゼブブに藉りて惡魔を逐ふと汝等言へ

心也。我もしべエルゼブブに藉て悪魔を逐む、汝等の子
 弟は誰に藉て之を逐ふや、故に彼等は汝等の裁判人たる
 べし。されど我若し神の指に藉て悪魔を逐ふならむ、真
 に神の國は汝等に格れるなり。夫強き者鎧して厥の室を
 守る時は、其が有る物は安し。されど彼よりも強き者か
 れに襲ひ來りて彼に勝む、彼が恃む處の武器を悉く奪ひ、
 其贓物を分たん。我に與せざる者は我に敵するなり、我
 と偕に歛めざる者は散すなり。汚鬼人より出で、後、曠
 漠たる處を巡りて憩息を求むれども獲ず、乃ち謂らく、我
 が出し舎に返らんと、來りて、其が掃清め飾れるを見る

や、往きて、已よりも悪き他の七の悪鬼を携へ、共に入
 りて茲に住たれむ、其人の末路は前よりも更に悪く成り
 ぬ。耶蘇此等の事を説きをれるとき、一人の婦群中より
 聲を揚て、耶蘇に言けるは、汝を懐せし胎、汝に哺せし
 乳は福なる哉。然るに 耶蘇は言たまひけらく、否な寧
 る神の言を聽て之を守る者は福なる哉。

使徒信經

奉獻誦

(九 頁)

主の宣命は悉く不偏にして、人々の心を樂ましめ、主
 の律法は最清き蜂蜜よりも甘し。嗚呼我天主、主の奴僕

は主の宣命を畏み守り奉つる。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは此祭壇が我等の罪科を消滅せしめ、主の奴僕の靈魂と肉軀とを淨めて、此神聖なる犠牲を、最も有功に主に捧げ得しめ給はんことを。我等の主 基督に依て伏して冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖躰奉舉の時の禱

(十五頁)

聖躰奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖躰を領くるを望む禱

(十八頁)

聖躰受領の時の誦

雀は其棲所を發見し、鶴は其雛を置くべき巢を獲たり。軍隊の天主、我王、我神よ、主の祭壇は我住處なり。主の殿中に住む者は福なる哉。彼等は永遠に主を讚美し奉つらん。

聖牀領後の禱

主よ、願くは斯く大なる聖祭に與からしめ給ひし我等を、諸の罪科と、諸の危難より援ひ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時の禱

(三十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○四旬節第四主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

イエルザレムよ歡喜べ。其を愛する汝等は擧て相集ふべし。其喜悅を分配たん爲に一致せよ。會て悲哀の中に在りし汝等は、今や歡喜を以て抃舞るべし。蓋は汝等最饒多なる、慰藉と愉快とに飽かせらるべけれ也。(詩)我々は「我等主の宮殿に行かん」と語げられし言に於て歡喜べ

り。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

主憐みたまへ。

基督憐み給へ。

主憐みたまへ。

各三回

集禱文

嗚呼全能の天主、願くは我等をして、自己の罪科に由りて招ける這底の災厄を悲みつゝも、猶主の聖寵の慰藉に依りて安和あらしめ給はんことを、我等の主 耶蘇基督に依りて祈り奉つる。亞孟。

聖保録與加拉太人書 四章廿二節

我兄弟よ、録してアブラハムに二人の子あり、一人は婢より生れ、一人は自主の婦より生れたりとあり。其婢より生れし者は血肉に由り、自主の婦より生れし者は、約束の能力に由りて生れたる也。這は皆譬喩にして、即ち此二婦は二の契約に比ぶべし。一はシナイ山の上に立ち、奴隷のみ生む處の者、即ちアガルに由りて表象されたる者なり。(蓋しシナイはアラビヤの山にして、地上のイエルザレムを表はす)、彼れアガルは婢にして、其兒等も亦然り。然れど天上のイエルザレムは全然自主にして、是

れ即ち我等の母なり。蓋は録して、姪ます産ざる者よ喜べ、未だ兒を産まざる者よ、歡聲を揚げて呼べ、棄てられし者の兒女は、夫ある者の子よりも多きが故なりとあれを也。我兄弟よ、我等はイザクの如く約束の子なり、而て當時血肉に由て生まれし者が、靈に由て生れし者を窘迫し如く、今猶然り。されど聖經は何と云へるや、婢及び其子を逐へ、蓋は婢の子は、自主の婦の子と共に嗣子たる可らざれを也と云へり。偕我兄弟よ、我等は決して婢たりし者の子にあらず、自主たりし者の子なり、而して此自主を我等に與へたる者は、耶蘇基督即ち是なり。

昇階誦

我は「我等主の宮殿に行かん」と語げられし言に於て喜べり。嗚呼聖都よ、平和は汝の郭内に在り、豊饒は汝の殿内に在れかし。

(詠唱) 主に已れを倚托する者は、シオンの山嶽の如く堅められ、イエルザレムに住まる者は、曾て動搖さるゝこと勿らん。山嶽のイエルザレムを圍繞み防護るが如く、主も亦其者を、今日及び永久に擁護り給ふ。

聖約翰福音書 六章一節

維時 耶蘇ガリレアの海、即ちテベリア海を彼旁へ濟

れり、大群衆これに従ひ往きぬ、是は病者等に作したまひし異徴を彼等見たれ也。是故に耶蘇は山に陟り、其弟子等と偕に其處に坐したまへり。時にユデア人の祝日、逾越節近かりき。茲に耶蘇目を舉て、絶大群衆の已に詣るを見るや、フヰリポに言たまはく、何處より麪餅を買ひて、彼等に食はしめん乎と、彼を試みて此を言へるなり、其爲んとする所を自ら知りたまへり。フヰリポ耶蘇に答へけらく、二百デナリヨの麪餅を以てするも、各箇少許を受けて、猶彼等に足らざるなり。其弟子の一人即ちシモン、ペトロの兄弟アンドレア耶蘇に言けるは、茲

に一箇の童子ありて、麩麥麪餅五頭と魚二尾を有てり、然れども斯く夥だしき人々の中にては、此果して何かあらん。是に於て耶蘇言たまひけらく、人々をして坐せしめよ、此處には多の草ありき。是に由て其數五千許の男丁坐せり。耶蘇やがて麪餅を取り、既に謝し了るや、其坐せる者等に分與へたまへり。魚につきても亦然り、彼等の欲するに任す。彼等飽くに及びて耶蘇其弟子等に言たまはく、残れる屑を拾ひて遺る無らしめよ。是に於て彼等拾ひけるに、五頭の麩麥麪餅を食ひて、餘せる屑十二の筐に満てり。斯りしかを、此等の人々は耶蘇の爲

したまひし異徴を見て、曰く、眞に是は世に来るべき夫
預言者なりと。是を以て 耶蘇は、彼等が將に來りて、已
を奪ひて王となさんとするを曉れるや、再び已獨にて山
に通れたまひき。

使徒信經

(九 頁)

奉獻誦

主を讚美せよ、蓋は至善にて坐ませむなり。主の聖名
の榮譽を頌へ、蓋は最愛すべき者なれむ也。主は其欲む
處を心、天にも地にも成し給へり。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは我等の捧ぐる此献物が我等の信心を増し、
又救靈を確むるやう、懇ろに之を嘉し納め給はんことを、
我等の主、耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。 亞孟。

序誦 (十二 頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四 頁)

聖躰奉舉の時の禱 (十五 頁)

聖躰奉舉後の禱 (十五 頁)

主禱文 (十七 頁)

神羔誦

(十八頁)

聖躰を領くるを望む禱

(十八頁)

聖躰受領の時の誦

各區合して全く一の嘆賞すべきものを成せる聖都イエ

ルザレムは、天主の奉仕者の共有せる郷士なり。主の聖

名を尊崇ん爲め献げられたる種族は此處に起れり。

聖體領後の禱

至善なる 天主、願くは聖寵を垂れて、我等に正しき

敬虔を以て、其不斷飽ける處の主の神聖なる秘蹟を祝し、

又常に純潔なる心を以て、之を領け奉つることを得しめ

給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞
孟。

掩祝の時の禱

(十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後之禱

(二十四頁)



○吾主御苦難之主日

彌撒拜聽前之禱

彌撒之始之禱

入進誦

(三 頁)
(四 頁)

嗚呼 天主、我を審判たまへ、而して我訴件と不信なる民の訴件とを判別ち給へ。主は我神我力にて在ませむ、願くは不正なる者、盡感べき者より我を救ひたまへ。(詩) 主の光明と眞理を我に降し給へ、此二の者は、我を主の聖山、主の聖殿に導くべし。

主憐みたまへ。

基督憐み給へ。

主憐みたまへ。

各三回

集禱文

全能の天主、我等主に祈り奉つる。願くは御慈悲の眼を垂れて、主の奉仕者を注視りたまへ、主の聖寵に由て彼等の肉軀は規正され、主の聖佑に由て彼等の靈魂は保護られんことを、我等の主 耶蘇基督に依て希求め奉つる。亞孟。

聖保錄與希伯來人書

九章十一節

我兄弟よ、未來の福祿の司祭の長なる
 基督は、既に來れり、彼は人の手にて造られざる、即ち常の道に依て成れざる最大なる最完全幕屋を過ぎて、羊牘の血を用ゐず、己が血を以て我等を永遠に贖ひし後、聖き所に入れり。若し羊牘の血、又は牘の灰を混せたる水を濯ぎて、外部と肉軀とを潔め、汚れたる者を聖くし得む、況て、聖靈に由り汚なき犠牲の如く自己を神に献げし基督の血は、我等に死の行を去らしめて、其本心を潔め、能く活ける神に奉事へしむること幾何ぞや、是故に彼は新約の中保者と爲れり、是れ初の契約の下に犯せる罪を贖

ふべき爲め、受けし處の死に由て、神の召したまへる者等が、我主 耶蘇基督に於て、無窮嗣業を受けんが爲なり。

昇階誦

主よ、我仇敵より我を脱したまへ。主の聖意を爲すを教へたまへ。主は我仇敵を斥けて我に勝利を心得させ給へり。主は我を我迫害者の上に置き、悪人の手より脱し給はん。

(詠唱) 今やイスラエルの自ら言ひ得べき時は來れり。「我仇敵は、我幼稚時より數度我を襲ひ、又其襲撃を屢々再

演たり。彼等は我に對して何の得る所もなかりき。罪人等は最烈しく我を撃てり、彼等は其不正を久しく我に加へたり、然と主は正義に在ませむ、頓て彼等の頭を打摧き給はん。

聖約翰福音書 八章四十六節

維時 耶蘇ユデア人に告げたまはく、汝等の中に誰か我を罪ありと證明し得る者ある。我汝等に眞理を説くに曷ぞ我を信せざるや、神よりせざる者は神の言を聽納る、され汝等は神よりせざる者なるに因りて聽納ざる耳。是を以てユデア人答へて 耶蘇に言けるは、汝はサマリア人

にして、惡魔に憑れたる者と我等が言へるは宜ならずや。耶蘇答へたまはく、我は惡魔に憑れたるに非ず、惟我や吾父を尊榮し、而して汝等われを侮辱するのみ、但し我は己の榮光を求めず、求め且審判く者一ありて存す。誠に誠に我なんぢらに告ぐ、人もし吾が言を守らむ、永遠に死を見ざらんとす。是に由りてユデア人言けるは、今我等は我が惡魔に憑れたる者なるを曉れり。アブラハムも預言者等も死したり、然るを汝は説くらく。人もし吾が言を守らむ、永遠に死を嘗はじと、汝は我等の父アブラハムよりも大なる者なるか、彼も死し、預言者等も死

したり、汝自ら己を誰とするや、耶蘇答へたまはく、我
 若し自ら己を榮ゑせむ、吾か榮光は虚し、我を榮ゑする
 者は吾が父なり、是すなはち汝等が己の神と稱ふる者に
 てましませり。汝等は彼を識らず、我は彼を知る、我若
 し彼を識らずと言ふ、我は汝等に均しき虚誑家たらん。然
 れども我は彼を識り、且彼れの言を守るなり。汝等の父
 アブラハムは吾が日を見んとて樂めり、彼は之を見て歡
 べり。是に於てユデア人 耶蘇に言けるは、汝は未だ五
 十歳にも成らざるに、アブラハムを見しや。耶蘇彼等に
 言ひたまはく、誠に誠に我汝等に告ぐ、アブラハムの生

れざりし前より我は在るなり。因て彼等石を取りて、耶
 蘇に投んとせしが、耶蘇は身を隠しつ、聖殿より出で去
 りぬ。

使徒信經

(九 頁)

奉献誦

主よ、我れ心を竭して主を讚美し奉つらん、主の奉事
 者に聖寵を降し給へ。我れ生涯、主の訓誡を守らん。主
 よ、我に主の聖言に従て生活せしめたまへ。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは此供物が我等を其罪辟の鎖より脱し、主の慈恵の賜物を我等に獲しめんことを、我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。 亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱

(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

主は宣へり、『是れ汝等の爲めに與へらるゝ我體軀なり。是れ我血に於ける新約の爵なり。汝等毎度之を領くる時、我紀念として如此爲すべし』と。

聖體領後の禱

主、我 天主、我等を佑けたまへ。主の連綿ける救援に依り、其秘蹟を以て養ひたまへる儕輩を護り給へ。我等の主 耶穌基督に依て一向に希願ひ奉つる。 亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時
の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後之禱 (二十四頁)

○聖枝之主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦



主よ、聖佑を遏め給はず、守護の聖手を伸し給へ。獅子の口より我を救ひ、猛獸の角に對て、我懦弱を助け給へ。
(詩) 我 天主よ、我 天主よ、我に聖眼を注ぎたまへ、何故我を棄て給ふや。我より主の愛憐を褫ふものは、實に我罪科是なり。

主憐みたまへ。

基督憐み給へ。

各三回

主憐みたまへ。

集禱文

全能永遠の天主、主は世人に其倣ふべき謙遜の模範

を示さん爲め、我救贖主の人骸を享け、十字架の苦惱を忍ぶを欲みたまへり。願くは其忍耐を以て、我等に主の復活に與るの榮譽を得る道を教へ給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

聖保録與腓立比人書 二章五節

我兄弟よ、汝等 耶蘇基督の心情を以て心情とすべし、彼は神の容と性とを有ちたれど、自ら神と對等あることを僭越なりとは信せざりき。然れど反て己れを虚ふし、僕の貌と性どを取りて人の如くなり、己れの外部に現はるゝ所、凡て人として認められぬ。又自ら卑ふして、死に

至るまで順ひ、十字架の死すら受くるに至れり。是故に神は彼を崇めて、諸の名に超る名を之に與へたまへり。此は天に於ても、地の上にも、地獄の内にも、悉く 耶蘇の聖名に由りて(此所ニテ膝ヲ屈スベシ)膝を屈せしめ、且諸の口をして、主耶蘇基督は、其父なる神の榮光の中に在りと稱揚さしめん爲なり。

昇階誦

主は我を其聖手に撐り、聖慮に従て我を導き、其榮光の中に接け給へり。イスラエルの天主は、正しき心を有つ儕輩に對して、如何に慈善に在すぞや。されど我足

は微に顛ひ、我歩は稍蹶れぬ、是れ悪人の跳梁を見て、我心憤恚めるに由てなり。

(詠唱) 我 天主よ、我 天主よ、聖眼を我に注ぎ給へ、何故我を棄てたまふや、我より主の愛憐を褫ふものは、實に我罪科是なり。我は終日、又主の我に聽許み給ふまで、斷じず主に對て叫ぶん、我終夜聲を揚げて呼ぶ、主は遂に黙せらるゝことなかるべし。主は其聖所に住みたまふ、主はイスラエルの榮譽なり。我等の祖先は希望を主に置き、彼等は望み、而して主は之を援け給へり、彼等主に對て叫び、而して主は之を聽許みたまへり。彼等

希望を主に置き、曾て耻かしめられしことなかりき。凡て我を見し者は我を罵れり、彼等は頭を揺りつゝ言へり「彼は主を頼めり、主若し彼を愛すること眞實ならむ、庶幾は主の彼を救ひ彼を援けんことを」と。彼等は斯る光景にて我を熱視るを樂めり。彼等は我衣服を分け、我裡衣を抽闔せり。獅子の口より我を救ひ、猛獸の角に對て、我懦弱を助け給へ。主を畏るゝヤコブの兒女よ、舉て主を讚美し、榮光を主に歸せよ。將來の人類は主に屬し奉つらん、而して天は正に生るべき人民、主の造り給へる人民に、其正義を宣言すべし。

(吾主 耶蘇基督之御苦難)

維時 耶蘇其弟子たちに言たまはく、汝等は知る、二日の後は逾越節にして、人の子は十字架に釘けられんに交付るべし。是時司祭長等及び民の長老等、カイファと云ふ大司祭の中庭に集まり、詭策もて 耶蘇を撃へ殺さんと相議りて、云らく、祝日には爲すべからず、恐くは民の中に亂起らんと。耶蘇ベタニヤにて癩病者シモンシモンの家に在りける時、貴き香油を玉の器シモンに持る婦彼に近づくシモン、彼が宴しつゝある首に注げり。弟子等之を見て、憤

て曰く、此浪費は是れ何の爲ぞ。斯は貴く鬻ぎて、貧き者に施すを得たらんと。耶蘇知りて、彼等に言たまはく、胡ぞ此婦を累はすや、彼は我に善功を爲す爾。貧き者は常に汝等の中にあれど、我は常にあらざれ也。彼が此香油を吾が體に注ぐは、我を葬らんとて行へるなり。我誠に汝等に告ぐ、全世界中此福音の宣傳へらるゝ處には、彼が爲せる所の事も彼が記念として稱へられん。時に十二の一人、イスカリヨテのユダといふ者、司祭長等の許に往て、彼等に言けるは、汝等は我に幾何を與へんとするや、我汝等に彼を賣ん、彼等銀三十枚を彼に「與へんと」

定む。ユダ此時より 耶蘇を交付んと機會を窺へり。無
 酵麵餅節の首の日、弟子たち 耶蘇に詣りて言けるは、我
 等をして何處に逾越の食を汝の爲に備へしめんと欲した
 まふや。耶蘇言たまはく、京城の某に往きて言へ、師云
 ふ、吾が期近づけり、我弟子と偕に汝の處にて逾越を行
 はんど。弟子等即ち 耶蘇の己等に命せし如く行ひて、逾
 越を備へたり。日暮し時、彼その十二弟子と偕に宴せり、
 食する時彼等に言たまひけらく、我誠に汝等に告ぐ、汝
 等の中一人われを賣ん。彼等はなほだ憂へ、各言はじむ
 らく、主よ我なるかど。耶蘇應へて曰く、我と偕に手を

盆に下す者、彼即ち我を賣ん。夫人の子は其の己に關り
 て録されたる如く逝ん、されども人の子を賣る者は禍な
 る哉、斯人や若し生れずを、却て己が爲に善りつらん。彼
 を賣るユダ言らく、ラビ、我なるか、彼曰たまふらく、汝
 の自ら言る「如し」。晚餐するに方て、耶蘇麪餅を取り、祝
 して擘き、其弟子等に與て曰く、取て食へ、是わが肉軀
 なり。また爵杯を取り、彼等に與へて曰く、汝等みな此
 より飲め。是は罪を赦すべく衆の爲に流されんとする新
 約の吾血なり。我汝等に告ぐ、我わが父の國にて汝等と
 りもに新なる者を飲む日まで、今より此葡萄の果を飲

じ。斯て讚美を誦へ畢るや彼等橄欖山に出ゆけり。時に
 耶蘇彼等に言けるは、今夜汝等咸我に躓かん、我牧者を
 撃ち、群の羊散んと録されたれ也。我復活後、汝等
 より先にガリレヤに往かん。ペトロ答て彼に言けらく、假
 令皆汝に躓くとも、我は決して躓かじ。耶蘇彼に言たま
 はく、我まことに汝に告ぐ、今夜鷄鳴前汝必ず三次我を
 否まん。ペトロ彼に言けるは、假令我汝と偕に死すると
 も汝を否まじ、弟子たち皆同じく然いへり。時に 耶蘇
 彼等と偕にゲツマニと云ふ田家に来りて、其弟子等に言
 けらく、我彼處に往きて祈禱くるまで、汝等此に坐せよ。

ペトロ及びゼベデオの二人の子を携へて、耶蘇憂へ且悲
 み始めたまふ、乃ち彼等に言けらく、吾靈魂死ぬるを
 かりに憂ふ、汝等茲に止まりて、我と偕に醒寤よ。少しく
 進み往つ、俯伏して祈り、曰けらく、吾父よ、若協は
 斯爵杯を我より過去しめたまへ、然ながら我欲する如く
 ならず、汝の欲する如く〔ならしめ給へ〕。斯て其弟子たち
 に来り、其が寝れるを見てペトロに言たまはく、斯く汝
 等一時も我と偕に醒寤めをる能はざるか。汝等誘試に入
 ざらん爲め、醒寤め且祈禱れ、心は逸れども、肉躰弱き
 なり。二次往き祈りて曰く、吾が父よ此爵杯もし過去す

して、我これを飲まざるを得ざるならん、汝の旨成かし。
 かくて復來り、彼等の睡れるを見る、彼等の目つかれた
 る也。彼等を離れて又往つ、三次めにも亦同じ言を以て
 祈れり。やがて 耶蘇其弟子たちに来りて、之に言たま
 はく、今は早や寢眠て休め。視よ時近し、人の子罪人の
 手に賣れん。起よ、我等ゆかん、視よ我を賣ん者近づけ
 り。彼なほ語れる中、視よ十二の一人なるユダ、並に彼
 ど、もに、劍や棒を持る大群衆、司祭長等と民の長老等
 より遣されて來れり。耶蘇を賣る者彼等に號を與て曰ふ、
 我が接吻する者は是なり、彼を撃へよ。彼直に 耶蘇に近

づきて曰く、アヴエ、ラビと、頓て彼に接吻す。耶蘇彼
 に言たまはく、友よ何の爲に來れるやと。時に彼等近づ
 きつ、耶蘇に手をかけて、之を撃へたり。視よ、茲に 耶
 蘇と偪なる者一人手を伸べ、劍を抜つ、大司祭の僕を撃
 て、其耳を削り。時に 耶蘇彼に言たまはく、汝の劍を
 其鞘に收めよ、凡て劍を把る者は劍に斃るべけれん也。我
 わが父に乞ふ能はずと思ふか、「若し乞ふ」、彼十二團餘の
 「天」使を今我に遣したまはん。されど若し然せん、斯あ
 るべしと云ふ經いかで成就せんや。其時 耶蘇群衆に言
 けるは、汝等は盜賊に「むかふ」如く劍と棒とを持って、我

を捕へに出づ、我日々に汝等の中に聖殿に坐して訓へたりしに、汝等は我を執へざりし也。但し預言者たちの「録したる」經の成就せん爲に、此事みな成りぬ。時に弟子たち皆彼を舍きて遁さりぬ。彼等すなはち 耶蘇を捕へて大司祭カイファの許に曳かれむ、彼處に學士等と長老等相集れり。ペトロ遠く離れて 耶蘇に従ひ大司祭の中庭にまで至り、内に入り、其結末を見どいけんとして、僕等どともに坐せり。司祭長等及び議會全體 耶蘇を死に解さんとして、彼を陷害るべき偽證を求めたりしが、許多の偽證人進み出たれども「之を」獲ざりき。最後に二名の偽

證人來りて、言けらく、彼「嘗て」言へり、我は神の聖殿を毀ちて能く三日の後に之を建なほし得ると。大司祭起て、耶蘇に言けるは斯等が汝に對して提起る證言に何も應へざるか。耶蘇默然たり。大司祭また彼に言けらく、我活る神に藉て汝に命ず、汝は「果して」神の子 基督なるかを我等に告よ。耶蘇彼に言たまはく、汝の自ら言る「如し」、然し乍ら我汝等に告ぐ、是の後汝等人の子が神の權能の右に坐し、天空の雲に乗て來格るを見ん。時に大司祭その衣を裂て云ふ、彼褻瀆せり、何ぞ他に證人を要せんや、視よ、汝等も今其の褻瀆を聞けり。汝等いかに思

ふや、彼等こたへて曰ふ、彼は死に當る。是に於て彼等
 その面に唾し、拳にて彼を撃ち、また或者は手掌にて其
 面を批ち、曰けるは、基督よ、汝を批る者は誰なるかを
 我等に預言せよ。さてペトロ外にて中庭に坐しけるに、一
 人の婢女かれに近づきて曰く、汝もガリレヤの 耶蘇と
 借に在りしと。彼衆の前にて否みて曰く、我なんぢの言
 ふ處を識ず。彼門を出んとするや、また他の婢女彼を見
 て、其處に居る者等に言けるは、此もナザレトの 耶蘇
 と借に在りしと。彼誓ひて再び否むらく、我この人を識
 ず。少頃ありて、「旁に」立る者等進み寄て、ペトロに言け

るは、汝も誠に彼等の黨與なり、汝の方言なんぢを明せ
 るなり。時に彼詛ひ且誓ひて、我は此人を識ずと言はし
 めけるに、頓て雞鳴さぬ。ペトロ乃ち 耶蘇が雞鳴かぬ
 前に汝三次われを否まんと宣ひし言を憶ひ出し、外に出
 て太く哭泣たり。

平旦になりぬれむ、司祭長等、及び民の長老等みな
 耶蘇を死に交付さんと相議り、彼を縛りて曳つれ、方伯
 ポンシオ、ピラトに解せり。時に彼を賣しユダ、彼の刑
 せられたるを見て、悔い、三十枚の銀を司祭長等れよび
 長老等に還して、曰く、義き血を賣て、我は罪を獲たり。

彼等曰く、我等に何かあらん、汝みづから之に當れ。彼乃ち銀を聖殿に投げ、去往つ、索もて自ら縊れたり。司祭長等銀を取て曰く、之を賽銭箱に入るは宜しからず、是れ血の價なれ也。彼等すなはち相議り、斯にて陶匠の畑を購ひて、他國の人々の埋葬地に充たり。故に此畑今日に至るまでハセルダマ、即ち血の畑と呼ぶ。是に於てか預言者イエレミヤの言たる所成就したり、曰くイスラエルの子等の中より其評價し評價れし者の値、銀三十枚を取て、主の我に命せし如く、之を陶匠の畑に易たりと。さて 耶蘇方伯の前に立しに、方伯彼に問ふて曰く、

汝はユデア人の王なるか、耶蘇彼に言たまはく、汝の自ら言る〔如し〕。耶蘇司祭長等と長老等より誣訴へられしかど、何とも答へたまはざりき。時にピラト 耶蘇に言けるは、彼等が汝に對して提起る證言の斯く多端なるを汝聞ざるや。耶蘇一言だも之に答へざりしかを、方伯甚だ怪むに至れり。此祝日には方伯より民の欲する囚人一人を釋すを例とす。茲にバラバと云ふ名だゝる囚人あり。彼等集りけれむ、ピラト言けらく、汝等は誰を我が汝等に釋さんことを欲するや、バラバか、抑も 基督といふ耶蘇かど、是は彼等の嫉妬に由りて彼を解せしを知れむ

なり。彼裁判の座に坐しけるに、其妻人を遣はして云ふ、汝
 斯義人の事に何も「與る」勿れ、我今日夢に彼が爲に太く
 苦みたるわれ也。司祭長等ねよび長老等民どもを唆か
 し、バラバを乞しめ 耶蘇を死さしめんとせり。方伯答
 へて、彼等に言らく、二人の中誰を汝等に釋すを欲する
 や、彼等言ふバラバをど。ピラト彼等に言けるは、然ら
 ば 基督といふ 耶蘇を我如何に處置せんか。皆曰く
 十字架に釘けよ。方伯かれらに言けるは、彼何の惡を
 行ひしや。彼等愈よ叫びて曰く、十字架に釘けよ。ピ
 ラト其何をも成どはすを得ず、只益騷擾のみ起らんとす

るを看たれを、民の前に水を取よせて手を盥ひ、而して
 言けらく、我は斯の義人の血に罪なし、汝等自ら當るべ
 し。民舉りて答へて曰ふ、彼れの血は我等の上たよび我
 等の子孫の上「歸せよ」。是に於て方伯はバラバを彼等
 に釋せり、而して 耶蘇を鞭ちつ、之を十字架に釘んた
 めに彼等に交付せり。方伯の兵卒 耶蘇を公堂に曳き、全
 營「の人々」を彼がまはりに喚集め、彼れの衣を褫ぎて、赤
 き袍を彼に衣せ、棘茨にて冕を編て彼が首に「戴かせ」、其
 右の手に葦を持せ、彼が前に跪き、彼を嘲弄りて曰ふ、
 アヴェ、ユデア人の王よ。また彼に唾し、葦を取りて

其首を撃ち、彼を嘲弄りて後、袍を褫ぎ、「原の」衣を彼に着せ、十字架に釘けんとて彼を曳ゆけり。彼等出る時、シレネ人シモンと名くる者に遇けれを、強て之に其十字架を負せつ、ゴルゴタといふ處に至りぬ、是すなはち髑髏の處と云ふなり。また膽を和たる葡萄酒を彼に飲せしに、嘗たれども肯て飲ざりき。さて彼を十字架に釘けて後、鬮を抽きて其衣を分てり、是れ預言者が言たる所の成就せん爲なり、曰く、彼等たがひに吾衣服を分け、吾裡衣を抽鬮にす。彼等坐して 耶蘇を守れり。また彼が首の上には是ユデア人の王 耶蘇なりと書たる罪標をぞ立

たりける。時に二人の盜賊彼と與に、一箇は其右、一箇は其左にて、十字架に釘けらる。通行者かれを褻し、首を揺て、曰く、噫神の聖殿を毀ち、三日に之を建なほす者よ、自己を救へ、若し神の子ならむ、十字架より下りよ。司祭長等並に學士等、れよび長老等同く嘲弄て曰く、彼は他人を救ひて、自己を救ふ能はず、若しイスラエルの王ならむ、今十字架より下りよ、然らむ我等かれを信せん。彼は神を頼めり、神もし彼を好せむ令救ふべし、彼我は神の子なりと言たれを也。彼と僭に十字架に釘けられたる盜賊も同く詬罵れり。六時より九時に至るまで、地

の上（上）徧（遍）く暗黒（暗黒）となりしが、九時（九時）をる 耶蘇（耶穌）大聲（大聲）に叫（叫）びて
 曰（曰）く、エリ、エリ、ラマ、サバクタニ（エリ、エリ、ラマ、サバクタニ）と。是れ吾神（是れ吾神）よ、吾
 神（神）よ、曷（曷）ぞ我（我）を棄（棄）てたまひしやと云（云）ふなり。彼處（彼處）に立ち
 て聞（聞）ける或人（或人）々言（言）らく、彼エリヤ（彼エリヤ）を呼（呼）ぶなり。其中（其中）の一
 人（一人）直（直）に走（走）り往（往）つ、海緘（海緘）を執（執）り、醋（醋）を涵（涵）含（含）め、韋（韋）に附（附）て彼
 に飲（飲）しむ。餘の人（餘の人）々は言（言）らく、待（待）て、エリヤ（エリヤ）彼（彼）を救（救）ひに
 來（來）るかを見（見）ん。耶蘇（耶穌）復（復）大聲（大聲）に叫（叫）びて、氣息（氣息）を斷（斷）てり。（此
 時に（時に）止（止）る（少）視（視）よ、聖殿（聖殿）の幕上（幕上）より下（下）まで二（二）つに裂（裂）け、地
 震（地震）ひ、磐（磐）破（破）れ、墓（墓）啓（啓）け、眠（眠）りたる聖徒（聖徒）の亡（亡）軀（軀）多（多）く興（興）しが、
 耶蘇（耶穌）の復活（復活）の後（後）、彼等（彼等）墓（墓）を出（出）て、聖京（聖京）に來（來）り、衆（衆）くの者

に現（現）はれき。百夫（百夫）長（長）れよび彼（彼）と偕（偕）に 耶蘇（耶穌）を守（守）りたる者
 等（等）、地震（地震）及（及）ひ其有（其有）し事（事）どもを觀（觀）て、甚（甚）だ怖（怖）れて云（云）ふ、彼
 は誠（誠）に神（神）の子（子）なり。ガリレヤ（ガリレヤ）より 耶蘇（耶穌）に隨（隨）ひ來（來）りて彼
 に事（事）へたる衆多（衆多）の婦（婦）遙（遙）に彼處（彼處）に居（居）れり。其中（其中）にマリア、マ
 グダレナ（マグダレナ）と、ヤコボ（ヤコボ）と、ヨセフ（ヨセフ）の母（母）なるマリア（マリア）と、ゼベ
 デオ（ゼデオ）の子（子）等（等）の母（母）とありき。日暮（日暮）し時（時）、また 耶蘇（耶穌）の弟（弟）子
 なる、アリマテヤ（アリマテヤ）の或富（或富）る人（人）ヨセフ（ヨセフ）と名（名）くる者（者）來（來）れり。彼
 ピラト（ピラト）に詣（詣）りて、耶蘇（耶穌）の屍（屍）を求（求）めけれむ、ピラト（ピラト）屍（屍）を交
 付（付）すことを命（命）せり。ヨセフ（ヨセフ）乃（乃）ち其屍（其屍）を取（取）りて之（之）を淨（淨）き殮
 布（殮布）に裏（裏）み、之（之）を磐（磐）を鑿（鑿）たる自己（自己）の新（新）しき墳（墳）壁（壁）に置（置）き、大

なる石を其墳塋の入口に轉しかけて去りぬ。マリア、マク
シレナと他のマリア其處にありて、墳塋にむかひて坐し
をれり。

翌日、即ち預備日に次る日、司祭長等れよびファリゼ
オ徒等俱にピラトに詣りて、申しけらく、閣下よ、憶起
せむ、彼の教唆者、尙生る時「嘗て」言らく、我三日の後
に復活らんと。是故に三日めまで、命じて墳塋を守らし
めよ、恐くは彼が弟子等來りて彼を竊み、民にむかひて
言はん。彼死者の中より復活りたりと。然らむ後の惑謬
は前よりも更に悪からん。ピラト彼等に言けるは、汝等

に番兵あれを、往て知まゝに守れど、彼等すなはち去り
て、番兵に墳塋を固守しめ、石に封印したりき。

使徒信經

(九 頁)

奉献誦

我心は、はや暴虐と苦惱との他、待つことなし。我徒
らに望みぬ、誰も我災害を憫まざりき。我れ慰藉者を索
めぬ、されを遂に逢遭し得ざりき。彼等我に食せんとて
膽を與へ、我渴ける時に醋を飲しめぬ。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

全能の 天主、我祈願を聽容れたまへ。願くは主の稜威に對して獻げられたる犠牲が、我等に敬虔なる心を起すの恩恵を與へ、我等をして無終福祉の日を過さしめんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

我 聖父よ、此爵杯若し過ぎ去らずして、我これを飲

まざるを得ざるならむ、汝の旨成かし。

聖體領後の禱

主よ、願くは此聖祭の徳能に由りて我等の過失を淨め、

望む所の正義を我等に充溢したまはんことを。我等の主

基督に依て肅んで冀ひ奉つる。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

(二十一頁)

の禱
聖會の爲の禱 讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

(二十四頁)



○聖木曜日 (吾主 聖體を定め給ふ)

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

我等は主 耶蘇基督の十字架に因て榮譽を得、救霊と
生命と更生を享け、贖宥と救援を蒙れり。(詩)願くは天
主の聖容の光明を以て我等を照らし、其慈悲を認知しめ
給ひて、我等を憐み且祝福し給はんことを。

主憐みたまへ。

基督憐み給へ。

各三回

主憐みたまへ。

集禱文

嗚呼 天主、エダは主より其罪の罰を受け、悔悛めし
盜賊は主より其信の賞を獲ぬ。仰ぎ願くは吾主 耶蘇基

督が、其苦難の時に際り、己れに隨從ひし輩に、其功徳を與へ給ひし如く、我等にも亦其罪科の汚漬を除き、復活の恩寵を享けしめ給ふやう、慈愛を以て待遇たまはんことを、天主にて在ます 耶蘇基督に依て、伏して冀ひ奉つる。 亞孟。

聖保録與哥林杜人書第一 十一章二十節

我兄弟よ、汝等一處に集ふ時爲すが如きは、既に主の晚餐を食するに非ず、そは各人食として己れの齷らせるものを、他者を待たずして食するに因り、或者は飢餓或者は度に超て飽けむ也。汝等飲食すべき家なきか、神

の聖殿を輕侮じ、又貧乏者を辱しめんと欲する乎。我何をか言ん、此に因て汝等を嘉むべきか、否我は嘉むる能はざる也。蓋しわが汝等に教へしことは、主より親く學びしものなり、即ち主 耶蘇交付さるる夜、麴餅を取り謝して之を擘き言けるは、取て食せよ、此は汝等の爲に交付さるべき我躰なり、汝等我紀念として如此爲せど、食して後又爵杯を取り言けらく、此爵杯は我血にして新約の爵杯なり、汝等之を飲む毎に、我紀念として如此行すべし。汝等此麴餅を食ひ此爵杯を飲む毎に、主の死を表して彼の來る時まで及ぶべし。故に宜きに合

はずして此麴餅を食ひ、此爵杯を飲む者は、主の體と血
 どに罪を犯すなり。されを宜く人自ら糾明して後、此麴
 餅を食ひ此爵杯を飲むべし、そは宜きに合はずして飲み
 食ふ者は、主の體を辨へずして己れの刑罰を飲食するに
 因る。是れ汝等の中に病める者、羸弱者の多くして、又
 死せる者多き所以なり、我等もし自ら己れを審さしなら
 んには、審かるゝことなかりつらん、然ど斯く我等の審
 かるゝは、是れ我等の世の人と共に、罰を蒙ることなか
 らん爲め、主の懲しめ給ふなり。

昇階誦

耶蘇基督は我等の爲に交付され、死而も十字架上の死
 に至る迄忍び給へり、然を天主は其死を嘉し、總の名
 に超ゆる名を彼に與へ給ひぬ。

聖約翰福音書 十三章一節

逾越節の日の前、耶蘇は既に己が斯世を去りて、父に
 歸るべき時の來れるを知りたまへり。世に於ける己の「弟
 子等」を、從より之を愛し、終に至るまで之を愛したま
 ひき。晚餐方に成れる時、惡魔すでに師を賣る「の意」をシ
 モンの子イスカリヨテのユダが心に入れてありしかを、耶
 蘇は早くも父が一切を己の手に授けたまひしと、己が神

より來りて神に往くことを知りて、晚餐の席より起あがりつ、其表衣を脱ぎ、幌巾を取りて自ら帶し、斯て水を盤に盛り、其弟子等の足を濯ひ始め、其帶たる幌巾もて之を拭へり。乃ちシモン、ペトロに臨むに、ペトロ 耶蘇に白しけるは、主、吾が足を濯ひたまふ乎。耶蘇答て彼に言ひたまはく、我が爲す所の者を汝今は知らず、然れども後には知るべし。ペトロ 耶蘇に言ひけるは、決して吾が足を濯ひたまふ可らず。耶蘇彼に答へたまひけるは、我若し汝を濯はすを、汝は我に分ある無けん。シモン、ペトロ 耶蘇に言けるは、主よ惟に吾が足のみならず、

また吾が手と頭をも濯ひたまへ。耶蘇彼に言たまはく、既に濯はれたる者は惟足を濯ふを要する而已、されども身全く淨きなり。汝等は淨し、然れども皆には非ず。是れ 耶蘇は己を賣ん者は誰なるを知りたまひしが故なり。是を以て汝等は皆淨きには非ずと言たまひし耳。耶蘇彼等の足を濯ひ畢り、其表衣を取りて後、復宴に即きて、彼等に言たまはく、我が汝等に爲したる所の何たるを汝等知るや。汝等は我を師また主と呼ぶ、汝等の然か言ふは宜し、我は眞に是なり。我は主たり又師たるに、猶汝等の足を濯ひたらむ、汝等も亦須く互に足を相濯ふべ

し。我模範を汝等に示したるは、我が汝等に爲したる如く、汝等にも亦爲さしめん爲なり。

使徒信經

(九頁)

奉獻誦

主の右手は其權威を彰はせり、主の右手は我を高めぬ、我は死なずして活さん、而して主の偉業を宣傳へん。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

至聖なる主、全能の聖父、永遠の天主、我等恭しく主に願ひ奉つる。願くは我等の犠牲が、耶穌基督即

ち此日に於て、此祭式を定めつゝ、己が紀念として爲すべきやう、其弟子等に命じたまひし聖子に依て、主の聖意に適ふものとならんことを。永遠に活き且統治したまふ天主にて坐ます 基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦

三百六

聖體を領くるを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

(十八頁)

主耶穌其弟子等と食して後、親ら彼等の足を濯ひ、且宣ふやう、我汝等に爲したる所の何たるを汝等知るや、我こそは實に主にして又師たり、而も猶かく模範を汝等に示せるは、汝等にも亦如斯爲さしめん爲なり。

聖體領後の禱

主我等の天主、我等恭しく主に求め奉つる。願くは生命を賦與る此食糧に由て聖寵を降し、我等が生涯の間

祝し奉つる所のものを、終りなく享有るの福祉を我等に與へんことを確め給へ。我等の主 基督に依て。亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭を壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に禱る(二十三頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○聖金曜日

集禱文

嗚呼 天主、ユダは其罪の罰を主より受け、盜賊は其悔悛の報賞を主に獲たり。願くは 耶蘇基督が其苦難の時際に際り、其成績に従て各々を待ひ給ひし如く、我等も亦罪科の汚漬を除きて、聖靈の一致に於て、主と偕に永遠に統治したまふ 耶蘇基督の復活の恩寵に與からん爲め、聖寵を垂れて、主の愛憐の効果を、我等に感知しめ給はんことを。 亞孟。

聖約翰福音書 十八章及十九章

維時 耶蘇其弟子等と偕に出で、セドロン溪を涉りしが、其處に園ありければ、則ち弟子等と偕に其中に入たまへり。耶蘇を賣んとせるユダも亦その處を知れり、是は 耶蘇屢々その弟子等と偕に彼處に集りたれ也。故にユダは一隊の兵卒と若干の下役を司祭長等及びピファリセオ徒より受け獲て、提灯と火炬と武器を以て彼處へ來れり。是に於て 耶蘇は將に已に臨まんとする事等を悉く知つ、進みて彼等に言たまはく、汝等は誰を尋ぬるや。彼等これに答へけらく、ナザレトの 耶蘇を。 耶蘇彼等

に言ひたまはく、我なり。彼を賣るユダも彼等と僮に立
 てり。然るに 耶蘇彼等にむかひて我なりと宣まふや、彼
 等は後に退きて、地に倒れたり。故に 耶蘇再び彼等に
 問たまはく、汝等は誰を尋ぬるや。彼等いひけるは、ナ
 サレトの 耶蘇を。耶蘇答へたまはく、我なりと已に汝
 等に告たり、然れど汝等もし我を尋ぬるならん、此等の
 者を容して去しめよ。是は汝の我に賜へる者の中我は一
 人をも失はずと 耶蘇が宣まへる言の成就せん爲なりき。
 時にシモン、ペトロ 劍を佩きたれど、之を抜きつ、大司
 祭の僕を撃ちて、其が右の耳を削げり。其僕の名はマル

クスと云ふ。耶蘇是に於てペトロに言たまひけるは、汝
 の劍を鞘にをさめよ、吾父の我に賜へる爵杯は我飲さる
 べけんや。時に兵隊、將官、及びユデア人の下役、耶蘇
 を撃へて、之を縛りしが、先アノナの所へ曳ゆけり、彼
 は其年の大司祭たりシカイファの外舅なりけれ也。カ
 イファは耶蘇是れ嘗てユデア人にむかひて、民の爲に一
 人死するは益ありとの忠告を與へたりし者なりき。但し
 シモン、ペトロは、耶蘇の後に従ひ行けり、他の一弟子
 も亦(然す)。該弟子は大司祭に知れたる者にして、耶蘇と
 僮に大司祭の中庭に入りぬ、然れどもペトロは門の外に

立てありき。是を以て夫大司祭に知れたる他の弟子出て、
 門番の女に言ひつ、ペトロを引いれたり。是に於て門を
 守れる婢ペトロに言けるは、汝も亦斯の人の弟子の一な
 らずや。彼曰ふ、然らず。恰も寒かりけれを、僕等れよ
 び下役等炭火に立向ひて煖りをり、彼等どもにペトロも
 亦立て煖りをれり、是に大司祭は 耶蘇に其弟子の事、及
 び其教道を問へり。耶蘇彼に答へたまはく、我は公然と
 世に唱へたり、ユデア人の皆相集まる會堂れよび聖殿に
 て我は常に教へたり、何を幽隠處にては説かざりし也。
 汝何ぞ我に問ふや、我が説きし所を聴聞したる人々に問

へ、寔に彼等は我が説きたる所の如何を知れり。耶蘇是
 を言ふや、下役の一人傍にをりて、耶蘇に頬撃をあたへ
 て、曰く、汝大司祭に答ふる斯の如き乎。耶蘇彼に答へ
 たまはく、我が言ひたる所若し悪くを、其の悪てふ證を作
 せ、若し善くを、何ぞ我を打つや。アンナ乃ち 耶蘇を
 縛りて大司祭カイファの所へ送れり。シモン、ペトロ立
 て煖をりしかを、之に言ふ者等ありて曰く、汝もまた彼
 が弟子の一ならずや。ペトロ否みて曰く、然らず。大司
 祭の一僕、即ち其耳をペトロが削ぎたる者の親族、彼に
 言けるは、汝が園にて彼と俱にあるを我は見しに非ずや。

困てペトロ復否みしに、忽ち雞公歌へり。斯て 耶蘇を
 マイファの所より公廳に曳きしが、恰も詰朝なりき、但し
 かれら自身は公廳に入らざりき、是は汚れずして、逾越
 を食ふことを得んが爲なりしなり。是を以てピラト彼等
 の所に出來りて、言けるは、汝等此の人に對して何の告
 訴を提供せんとするや。彼等答へて彼に言けるは、是若
 し犯罪者に非ずむ、我等之を汝に解さず。是に於てピラ
 ト彼等に言けるは汝等かれを取り、汝等の律法にしたが
 ひて彼を審判け。ユデア人因て彼に言けるは、我等は人
 を刑殺す能はずと、是は 耶蘇が何の死を以て死せんか

を示して言たまひし言の成就せん爲なりき。是を以てピ
 ラト再び公廳に入り、耶蘇を召いたして之に言けるは、汝
 はユデア人の王なるか。耶蘇答へたまはく、汝これを自
 ら考へて言ふなるか、又は他の者我にのきて汝に告しな
 る乎。ピラト答へけるは、我豈ユデア人ならんや。汝の
 國民及び司祭長等汝を我に解せり、汝は何を爲したるや。
 耶蘇答へたまはく、吾が國は此世よりするに非ず、吾が
 國もし此世よりする者ならむ、吾が臣僕必ず我をユデア
 人に解さるやう戦ふべし、然れども今吾が國は此より
 するに非ず。ピラト困て 耶蘇に言けるは、然らむ汝は

果して王なるか。耶蘇答へたまはく、汝が言へる（如く）
 我は王なり。我は此が爲に生れ、此が爲に世に來り、以
 て眞理に證を作すなり、凡て眞理に屬する者は吾が聲を
 聆く、ピラト 耶蘇に言けるは、眞理とは何ぞやと。斯
 く言をはるや、再びユデア人の所に出ゆきて、之に言ひ
 けらく、我は彼に何の罪案あるをも見ず、但し汝等に一
 例ありて、逾越節には一人を我汝等に釋す、されど汝等
 は我がユデア人の王を汝等に釋さんことを欲する乎。是
 に於て彼等みな再び叫びて曰く、斯人ならず、バラバを
 と。バラバは然し乍ら賊なりき。

是に於てピラト乃ち 耶蘇を取りて、之を鞭てり。而
 して又兵卒は棘茨にて冕を編みて、彼が首に戴かせ、且
 絛き衣を彼に纏はせ、彼が前に至りて言く、アヴェ、ユ
 デア人の王よと、頓て彼に頬撃を與へたり。爰にピラト
 は復出來りて、衆に言ひけるは、彼に何の罪案あるをも
 我が見いださるを汝等に知らしめん爲に、視よ、我彼
 を汝等の前に曳いだせりと。（耶蘇頓て棘茨の冕と絛き衣
 を着て出きたりけれと）又彼等に言けるは、視よ、斯人。
 斯りしかを、司祭長等れよび下役等 耶蘇を見るや、叫
 びて曰く、彼を十字架に釘けよ、十字架に釘けよと。ピ

ラト彼等に言けるは、汝等みづから彼を取りて十字架に
 釘けよ、我は何の罪案をも彼に見いださざれ也。ユダ
 ア人かれに答ふるに、我等に律法の在るあり、該律法に
 従へむ、彼は死せざる可らず、如何とならむ彼れのれを
 神の子と謂做したれ也。是に於てピラトは此説を聞く
 や倍す懼れ、重て公廳に入りつ、耶蘇に言けらく、汝は
 何處の者なるや。但し耶蘇は彼に應答を與へたまはざ
 りき。ピラト因て耶蘇に言けるは、汝は我に言はざる
 や。我は汝を十字架に釘くる權あり、又汝を釋す權ある
 を知る乎。耶蘇答へたまはく、汝上より汝に授かれる

に非ざれむ、我にむかひて何の權もあるべからず、是故
 に我を汝に解せし者は幾層大なる罪あるなり。是よりピ
 ラトはまた耶蘇を釋さんと求めたりしかども、ユデア
 人叫びて曰く、汝もし此人を釋さむ、セザルに忠臣なら
 ず、如何とならむ凡て自ら主と稱する者はセザルに叛く
 なれむ也。ピラト斯の言を聞くや、耶蘇を引き出し、鋪
 石と云ふ〔處〕ヘブレア語にてガハサと云ふ處にて、審判
 の座に坐せり。恰も逾越節の預備日にして凡そ六時頃な
 りしが、ピラトユデア人に言けるは、視よ、汝等の王と。
 然るに彼等叫ぶらく、彼を去れ、彼を去れ、十字架に釘

けよ。ピラト彼等に言けるは、我豈汝等の王を十字架に
 釘くべけんや。司祭長等答へけらく、我等にはセザルの
 外王なし。是に於てピラトは十字架に釘けられしむるや
 う 耶蘇を彼等に交附しけれを、即ち 耶蘇を取りて、曳
 ゆけり。耶蘇は己の十字架を負ひて、夫の鬪闘と云ふ處
 へブレア語にてゴルゴタ〔と云ふ處〕に出ゆけり。彼處に
 て彼等 耶蘇を十字架に釘けたり、又他に二人をも彼と
 俱に其兩旁にて〔釘け〕。耶蘇を心其真中に於てす。ピラ
 ト亦罪標を書きて、十字架の上に掲げぬ、即ち書して〔云
 く〕ナザレトの耶蘇、ユデア人の王と。故にユデア人の

中此罪標を讀める者夥たしかりき、是れ 耶蘇が十字
 架に釘けられし處は京城に近かりし上に、へブレア語、ギ
 リシア語、及びラテン語にて之を書たるに縁てなりとす。
 是を以てユデア人の司祭長等ピラトに言けるは、ユデア
 人の王と書きたまふ勿れ、我はユデア人の王なりと自ら
 言へりど〔書きたまへ〕。ピラト答へけらく、我が書きた
 る所は書きたれりど。斯くて兵卒は彼を十字架に釘け畢
 るや、其衣を四分して、每兵卒一分をとり、また其裏
 衣を〔取れり〕。但し裏衣は上より渾て織れる者にして縫
 目なかりき。故を以て彼等相互に言けるは、之を心裂す

して、誰のなるか之に闖抽んど、是れ經の成就せん爲なり、曰く、彼等たがひに吾衣服を分け、吾裏衣を闖抽にすど。兵卒は眞に此事を爲しき。耶蘇の十字架に接近して其母と其母の姉妹、即ちクレオファの妻マリアと愛する弟子の立る者どを見るや、其母に言たまはく、婦人よ、視よ汝の子、次に該弟子に言たまはく、視よ汝の母と。斯の時よりして該弟子は彼を己の家に接たり。斯て後、耶蘇は萬事の成れるを知り、經の成就せん爲に、言たまはく、我渴くと。恰も其處に醋の満たる器置れてありければ、彼等乃ち醋に浸せる海綿を牛膝に纏へて、其

口に撃げたり。斯りしかを、耶蘇は醋を受るや、言たまひけらく、成れりと、其首を垂れて、氣息を斷てり。(此所にて跪き少時は)是に於てユデア人は、(時しも預設日なりければ)十字架上に留らしめざらん爲に、ピラトに彼等の脛を折りて之を取り去らんことを乞へり。因て兵卒至りつ、首の者、並に之と偕に十字架に釘けられたる他の者の脛を折りしが、耶蘇に至るに及びてや、其已に死してあるを見たれを、之が脛を折ざりき。但し兵卒の一人槍もて彼れの脇を開きしに、血と水直ちに流れ出でき。親ら見し者證を作す、其證は確實なり。彼は其言ふ所の確

實なるを知る、庶幾くは汝等にも亦信せしむることを得ん。此事の起れるは、汝等彼が骨を一つ折るべからずといふ經の成就せんが爲なりき。經の他篇に又曰く、彼等は其刺たりし者を見んと。斯の後アリマテアのヨセフは(ユデア人を懼るゝに因りて隱密にはしたれども、耶蘇の弟子なりけれむ) 耶蘇の死體を取るを得せしめられんことをピラトに乞へり、而してピラト允しぬ。是を以て彼等に至りつ、耶蘇の死體を取れり。また初め夜を以て、耶蘇に至りしニコデモも没薬と蘆薈の混和物百斤をかりを携へて至りぬ。故を以て彼等 耶蘇の死體を受取り、ユデア

人の葬る風の如く香料とあはせて之を殮布にて巻けり。彼が十字架に釘けられし處に園あり、園の中に未だ誰も葬むられざる墓埜ありき。是故に彼等はユデア人の預備日なるを以て 耶蘇を彼處に置けり、其墓埜近かりけれむ也。

十字架拜禮之連禱(此禱文は猶太人及不信なる教徒の教主に對する悖行を詰責する語)

嗚呼 我人民よ、我汝等に何を爲せしぞ、何に於て汝等を悲痛ませしぞ、我に言へ。蓋は我汝等をエジプトの地より導き、汝等はその教主に十字架を立てたれむなり。嗚呼 聖なる天主よ。 嗚呼 聖なる天主よ。

嗚呼 聖にして強き
天主よ。

嗚呼 聖にして強き
主よ。

聖にして永久なる天

我等を憐み給へ。

主。
聖にして永久なる天

我等を憐み給へ。

蓋し、我四十年間絶えず、

「マンナ」を以て汝等を養ひ、豊饒なる地に汝等を入らしめぬ、

而も汝等は其教主に十字架を立てたれむなり。

嗚呼 聖なる天主よ。

嗚呼 聖なる天主よ。

嗚呼 聖にして強き

嗚呼 聖にして強き

天主よ。

天主よ。

聖にして永久なる天

我等を憐み給へ。

主。
聖にして永久なる天

我等を憐み給へ。

我汝等の爲に爲すべきものにして、爲さざる處何かある。

汝等は我親ら植ゑし宏大なる葡萄樹ならずや、而も

汝等は我が爲に悉く苦味を有てり。蓋は汝等我渴ける時

に醋を與へ、鎗を以て其教主の脇腹を貫きたれむ也。

嗚呼、聖なる天主よ。云々

我汝等を愛する爲め、エジプトを其長子と共に打搏たりき。而して汝等は我を鞭撻たせんとて交付にき。

我汝等に何を爲せしぞ。何に於て汝等を悲痛ませしぞ我に言へ。

我フハラオンを紅海に溺めて、汝等をエジプトより援き出せり。而して汝等は我を司祭長等に交付したり。

我我人民よ、我汝等に何を爲せしぞ、何に於て汝等を悲痛ませしぞ、我に言へ。我汝等の爲めに、通路を海中に開きたり。而して汝等は鎗を以て我脇腹を突き開きぬ。

我我人民よ、我汝等に何を爲せしぞ、何に於て汝等を悲痛ませしぞ、我に言へ。我汝等の征途中、密雲の柱を汝等の前に進ましめ、汝等を導きぬ。而して汝等は我をピラトの裁判庭に引き行けり。

我汝等に何を爲せしぞ、何に於て汝等を悲痛ませしぞ、我に言へ。我沙漠に於て「マソナ」を以て汝等を養ひぬ。而して汝等は我に與ふるに侮辱と打擲を以てせり。

我汝等に何を爲せしぞ、何に於て云々
我巖より出でし清き水以て、汝等の渴を醫しぬ。而して汝等は我に飲ましむるに酢と苦膽を以てせり。

我汝等に何を爲せしど、何に於て云々

我汝等を愛する爲に、カナアンの王等を打搏ぬ、而して

汝等は葦を以て我頭を打撃たりき。

我汝等に何を爲せしど、何に於て云々

我汝等に與ふるに王笏を以てしぬ。而して汝等は荊茨の

冕を我頭に冠らせき。

我汝等に何を爲せしど、何に於て云々

我汝等を榮譽と光榮に擧げたりき。而して汝等は我を十

字架の刑臺に縛しけり。

我汝等に何を爲せしど、何に於て云々

(交誦) 主よ、我等主の十字架を拜禮し、主の聖き復活を稱揚讚美し奉つる。蓋し十字架の材に由て、全世界は歡喜に充たされたれ也。(詩) 願くは天主の我等を憐れみ、我等を祝し、其聖容の光明を以て我等を照らし、其慈悲を我等に感知しめ給はんことを。

讚歌

汗忠實なる十字架、凡てに超ゆる尊き樹、其葉、其花、其果實として、何處の森林も汝が比儔を産せず、貴重なる材、神聖なる釘、汝は這箇温和の荷を擔へり。歌へ、我舌。最も著名き榮譽なる圃を成したる者を。其

戦利品として十字架を獲し貴き凱旋を。語れ、如何に、世の救贖主が屠られつゝ勝利を得しかを。

吁忠實なる十字架、凡てに超ゆる尊き樹、其葉、其花、其果實として、何處の森林も汝が比儔を産せず。

不運の果實を食ひし爲め、死の中に投せられたる、我等の父なる元始の人間の不幸を怜みて、造物主は、此日に於て、木より生せし不幸を恢復ふため、木(十字架)を必

顯し給ひけり。

貴重なる材、神聖なる釘、汝は這箇温和の荷を擔へり。我等が救靈の事業の順序は斯ありき。即ち神の技工が

我等を誑せし悪魔の偽計を矯正し、創痍を癒すの藥劑は、其を生せし處より來ることを要しけり。

吁忠實なる十字架、凡てに超る尊き樹、云々
聖き時期の満ちぬる日、宇宙の造者なる 天主の聖子は、其聖父より遣はされ、童女の胎内に肉と化りてぞ生

れける。

貴重なる材、神聖なる釘、云々
幼孩は芻槽の内に、呱呱の聲を揚げ。其母なる童女は

襁褓に裹める彼の肢體を擁け持ち、而して天主の聖手足は狭き布片にて被はれぬ。

吁忠實なる十字架、凡てに超る尊き樹、云々
六リユストル(五ク年ユストルは)生活せし後、彼の死すべ
き生命は近き。我等の救贖主として來れる渠は、甘じて
其身を苦難に交付す。而して羔は牲に供へられん爲め、十
字架の木の上に擧げられぬ。

貴重なる材、神聖なる釘、汝は這般温和の荷を擔へり。
其終焉に際りて、苦膽を飲まされ、棘茨と釘と槍とは、
其軟弱なる軀軀を傷ふり、其臍腹より血と水は流れけり。
是れ陸と海、星宿と全地球を淨むる處の河にてある也。
吁忠實なる十字架、凡てに超ゆる尊き樹、其葉、其花、

其果實として、何處の森林も汝が比儔を産せず、
貴き樹よ、其處に集へる會衆を慰むるやう、汝が枝椏
を垂れ。無上の王の悲痛を輕むる爲め、汝が堅硬を自ら
軟がしめよ。

貴重なる材、神聖なる釘、云々
世の犠牲を齎し、破船したる人類を埠頭に導く救靈の
船と爲り、羔の貴き血を湛ふるに堪ふべきものは汝のみ。
吁忠實なる十字架、凡てに超る尊き樹、云々
福なる聖三位に無窮の榮光あれ、聖父と聖子と慰藉者
なる聖靈に均等き榮光あれ。願くは世を擧りて、聖三位

の各位の御名を讚美せんことを。亞孟。

○聖土曜日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦(無し)

集禱文

嗚呼 天主、主は吾主の復活の榮譽を以て、此較著にして壯嚴なる聖き夜をを現はし給へり。仰ぎ願くは、主

の聖會の新なる信民が、肉軀と精神とを更新めつゝ、清淨潔白にして主に事へん爲め、主の與へ給ひし義子の精神を彼等の心に保たしめ給はんことを、我等の主 耶蘇基督親躬らに依て、伏して願ひ奉つる。亞孟。

聖保錄與哥羅西人書 三章一節

我兄弟よ、汝等若し 基督と共に甦りしならむ、天に在るものを求むべし。耶蘇基督は彼處に在りて、神の右に坐し給へり。汝等、地に在るものにあらで、天に在るものを味へ。蓋し汝等は死して、其生命は 基督と共に神の中に藏れ在れ也。汝等の生命なる基督の顯はれん

時は、汝等も亦彼と偕に榮光の内に顯はるべし。

(聖職者奏樂師と交互に三回「慶哉」を歌ひ次に)

慶哉慶哉慶哉、主を祝し奉つれ、蓋し主は善にして、其慈悲は絶ゆる時あらざれ也。

(詠唱) 凡ての國民よ、主を讚美し、其榮光を宣揚し奉つれ。嗚呼凡ての人民よ、主を稱揚へ奉れ。蓋し其慈悲は、我等の上に愈よ確保められ、主の眞實は永久に存すれ也。

聖馬竇福音書 二十八章一節

偕安息日の夜、即ち七日の首の黎明にマリア、マгда

レナ、ねよび他のマリア墳壁を觀んとて來りしが、視よ、大なる地震あり、主の使即ち天より降りて近よりつ、石を轉心して其上に坐せり。其面容は電光の如く、其衣は雪の如し。番兵之に怖れ慄きて死たる者の如くなりき。神の使婦人等に答へて曰ふ、汝等怖るゝなかれ。我汝等が十字架に釘けられたる 耶蘇を尋ぬるを知る。彼は茲に在らず、其自ら言ひし如く復活れるなり、汝等來りて、主の置れたりし處を觀よ。疾く往て、彼の弟子等に其復活し事を告よ、視よ、彼は汝等に先だちてガリラヤに往んとす、汝等かしてにて彼を見ん。視よ我預め汝等に告ぐ。

微唱禱

主よ、願くは主の信民が復活の聖祭に參與り、主の恩寵に依て、永久の生命に達するの靈劑を領ん爲め、彼等の祈願と供物とを嘉納め給はんことを。我等の主 基督に依て、謹で冀ひ奉つる。 亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱

(十五頁)

聖體奉舉後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

司祭聖體を領けて後直ちに爲す誦

慶哉、慶哉、慶哉。諸の國民よ、主を讚美め奉つれ。萬の民よ、主を稱揚へ奉つれ。蓋し其慈悲は我等の上に愈よ鞏固められ、主の眞實は永久に存すれ也。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

(交誦) 安息日の夜、即ち七日の首の黎明にマリア、マダ

ダレナ、及び他のマリア墳塋を觀んとて來れり。慶哉。我魂は主を崇め、我靈は吾救主なる神を樂む。嗚呼婢の卑微をも神は眷み給へり。今より萬代の人は我を福な

る者と稱へん。大能なる者われに偉大なる業を成たまへり、其御名は聖なる哉。主を畏る者には其慈悲千代萬代にこそ自ら其腕を以て力を彰はし、其心意に驕る者を打散したまふ。權勢ある者を其位より下し、卑賤者を高めたまふ。飢たる者には飽するに佳物を以てし、富る者を心空手にて去しめたまふ。御慈悲を憶念にて、其僕イ
スラエルを扶けたまふ、我等の祖先に宣へる如く、アブラハムにも其子孫にも世々限り無けん。

(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

(交誦)安息日の夜、即ち七日の首の黎明にマリア、マク

ダレナ、及び他のマリア墳塋を觀んとて來れり。慶哉。

聖體領後の禱

主よ、此聖式に於て主が同じ秘蹟を以て養ひ給ひし儕輩に、御恩寵の全く一致せんやう、主の愛の靈を我等の上
に降し給はんことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

(二十一頁)

聖會の爲の禱

彌撒後の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

(二十四頁)

三百四十三

十聖主復活大祝日

三百四十四

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

我甦りて猶汝等と偕に在り。慶哉。主の我を導き給ふは手を以てするが如し。慶哉。萬般に於ける主の智慧は最と奇異し。慶哉。慶哉。(詩)主よ、主は我心を測り給へり、主は我を知り、我諸の云爲は主に知らる。(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

嗚呼 天主、主は其獨子の、死に對して獲たまひし勝利に由て、我等の爲めに、今日永久の門を開き給へり。仰ぎ願くは、主の冥助を垂れ、聖寵を以て親く我等を護り、我等に教へ給ひし祈禱、念願を扶けたまはんことを。我等の主 耶穌基督に依て願ひ奉つる。亞孟。
聖保錄與哥林杜人書第一 五章七節
我兄弟よ、汝等は單純にして麪酵なきもの、如く、全く新たなる團塊たらん爲め、舊き麪酵を除くべし。夫我

三百四十五

等が逾越の羔、即ち 耶蘇基督は既に宰られ給へり。然
るに我等は舊き麩酵と、悪慝不正の麩酵を用ゐず、眞實と
至誠の無酵麩包を用ゐて、此逾越を祝ふべし。

昇階誦

視よ、主の造りたまへる日は來れり、我等此日に於て
樂しみ、歡喜以て踊躍るべし。榮光を 主に歸せよ、蓋
し主は善にして、其慈悲は限無く在ませむ也。
慶哉、慶哉。我等が逾越の羔なる 耶蘇基督は、我等
の爲めに宰られ給へり。

續唱

願くは、教を奉ずる者等が、其逾越の羔なる 基督に
讚頌の犠牲を献げんことを。

羔は多數の羊を賠償ひ、無罪なる 耶蘇は罪人を其父
と和はしめぬ。

死と生とは闘を始めけり。生命の造者は死して、其領
國は生命より充實されき。

語れ、マリアよ、汝道に於て何を見しかを。
我は活ける 基督の墳塋と、甦へれる 耶蘇の榮光を

見にき。
我は其證據なる天の使等と、屍衣と殮布とを見たりけ

り。

我^{われ}希望^{のぞみ}なる 耶^{イエ}蘇^スは甦^{よみが}へれり。 彼^{かれ}は汝^{なんぢ}等に先^まちてガリ

レヤに往^ゆかん。

我^{われ}等^らは知^しる、 耶^{イエ}蘇^ス基^キ督^{キリスト}の、 眞^{まこと}に死^し者^{しや}の中^{うち}より甦^{よみが}りしを。

嗚^あ呼^い死^しの勝^{しょう}利^り者^{しや}なる王^わよ、 我^{われ}等^らを憐^{あは}れみたまへ。 亞^ア孟^{メン}。 慶^{けい}

哉^や。

聖^{せい}馬^ま爾^に谷^こ福^ふ音^{おん}書^{しよ} 十^{じゅう}六^{ろく}章^{しょう}一^{いち}節^{せつ}

維^{せい}時^じマ^マリ^ア、 マ^マグ^グダ^ダレ^レナ^ナとヤ^ヤコ^コボ^ボの母^はマ^マリ^アとサ^サロ^メ

耶^{イエ}蘇^スに傳^{つひ}に往^ゆんとて香^{かう}料^{りょう}を買^かいけり。 即^{すなは}ち七^{しち}日^{にち}の首^{くび}の日^ひ、

彼^{かれ}等^ら朝^{あさ}早^{はや}く出^いで、 日^ひ已^まに昇^{のぼ}れる頃^{ころ}に墳^{はか}塋^かに來^{きた}りつ、 相^{あひ}互^{たがひ}

に曰^いけるは、 誰^{たれ}か墳^{はか}塋^かの入^い口^{ぐち}より、 石^{いし}を我^{われ}等^らのため^{ため}に轉^ま

をさん者^{もの}ぞと。 仰^{あや}げを、 石^{いし}の已^まに轉^まをされたるを^を見^みる。 寔^け

に其^{その}石^{いし}は甚^{はな}だ巨^{おほ}なりき、 乃^{すなは}ち墳^{はか}塋^かに入^いりしに、 皓^{しろ}き衣^えを

着^きたる少^{せう}年^{ねん}ありて、 右^{みぎ}の方^{かた}に坐^ませるを看^みたれを、 駭^{おどろ}き怖^{おそ}

れたり。 彼^{かれ}婦^め人^{にん}等^らに言^いけるは、 驚^{おどろ}く勿^なれ、 汝^{なんぢ}等^らは十^{じゅう}字^じ架^か

に釘^{くわ}けられたるナ^ナザ^ザレ^レトの 耶^{イエ}蘇^スを尋^{たず}ねれど、 彼^{かれ}は復^{また}活^か

れり、 早^{はや}や此^{こゝ}に在^あらず、 彼^{かれ}を置^おきたりし處^{ところ}を觀^みよ。 されを往^ゆ

て、 彼^{かれ}れ^の弟^{でい}子^したちとペ^ペト^トロに告^つげよ、 彼^{かれ}は汝^{なんぢ}等に先^まち

てガ^ガリ^リレ^レヤに往^ゆく、 其^{その}汝^{なんぢ}等^らに言^いし如^{ごと}く汝^{なんぢ}等^らか^かしこにて

彼^{かれ}を見^みんど。

使徒信經
奉獻誦

大地は震ひて絨默の中に住まれり、其瞬間 天主は、其審判を行んとて起ちたまひぬ。慶哉。

司榮麪餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、若し聖意に適はば、願くは逾越の玄義として保
存たれたる、我等の供物が、主の神業に由て、來世の爲
に我等の靈劑たらんやう、茲に捧げ奉つる祭餼と共に、主
の民の祈願を受納め給はんことを。我等の主 基督に依

て一向冀ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱

(十三頁)

司祭麪餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

我等の逾越なる 基督は幸られたり。慶哉。然れを眞
實と至誠の無酵麪包以て祝ふべし。慶哉、慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

主よ、主の愛の精神を我等に灌ぎたまへ。慈悲を垂れ
て、主が逾越の玄義を以て養ひたまひし儕輩を敬虔なる
團躰に集め給へ。我等の主 耶穌基督に依て冀ひ奉つる。
亞孟。

掩祝の時の禱

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時
の禱
(二十一頁)

(二十頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○御復活後第一主日 即ち「ソソジモド」の主日

彌撒拜聽前の禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

新たに生れたる嬰孩の如く、慶哉。我めて樸直に靈的
乳液を索めよ。慶哉、慶哉、慶哉。我等の保護者なる 主

を祀れ。ヤコブの神の讚美を謳へ。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六 頁)

集禱文

全能の天主、願くは聖寵を垂れて、此復活の祝祭をなせる後、我等をして、諸の所業の中に、其精神を保有たしめ給はんことを。我等の主 基督に依て恭く主に願ひ奉つる。 亞孟。

約翰書第一 五章四節

我愛する者よ、凡て神より生るゝ者は勝つ。此く世に

贏つ處の勝利は、我等が信の結果なり。耶蘇を神の子と信する者にあらずして、誰か能く世に勝つ者ぞ。水と血を以て臨る者は、即ち此 耶蘇なり、嘗に水のみならず、水と血を兼ね。而して耶蘇の眞實なるを證驗する者は靈なり。蓋し天に於て証をなす者三あり、聖父と言靈と聖靈なり。此三者は歸する處一なり。地の上に証をなす者三あり、靈と水と血なり、此三者も歸する所は一なり。我等若し人の証を受るならむ、神の証は更に大なり。夫此更に大なる神の証は、即ち其子の事に就て爲せる証なり。神の子に就て信する者は、其衷に神の証を有つ。

昇階誦

慶哉、慶哉。主は宣へり、我復活りて後ち、汝等に先ちて、ガリレヤに往んど。慶哉。其復活より八日の後、耶蘇は戸の鎖れたるに、其弟子等の中に現はれ、彼等に宣ふやう、汝等平安なれど。慶哉。

聖約翰福音書 廿章十九節

維時該日、即ち七日の首の日、既に暮て、弟子等ユデア人を怖るゝが爲に、門戸を威く閉て、集りをりし處へ、耶蘇來りて、其中に立ち、彼等に言たまはく、汝等平安と。此を言をはるや、其手と脇とを弟子等に示したまひ

けれを、彼等主を見たてまつりて喜べり。斯て 耶蘇復彼等に言たまひけるは、汝等平安、父の我を遣はしたまへる如く、我も亦汝等を遣はす。耶蘇此を言ひし時、彼等に氣吹て、之に言たまひけらく、聖靈を受けよ、誰の罪を汝等赦さんも、其は赦さる、誰の「罪を」汝等留めんも、其は留まる。但し十二の一にてデデモと云ふトマは耶蘇の來りたまへる時に、彼等と偕に在ざりき。因て他の弟子たち彼に言けるは、我等は主を見たり、彼然し乍ら之に言けるは、我は彼の手に釘の痕を見て、厥釘の處に吾が指をえるゝに非ざれを、肯て信せじ。八日の後弟

子たち再び内に會し、トマも彼等と偕なりしが、戸の閉てあるに、耶蘇來りて中に立ちて、曰く汝等平安と。斯てトマに言たまひけるは、汝の指を茲に差込て、吾が手を觀よ、汝の手を伸て吾が脇に入れよ、信するに吝なる勿れ、善く信せよ。トマ答へて彼に言けるは、吾が主よ、吾が神よ。耶蘇彼に言たまはく、トマよ汝は我を見たるに因りて信せり、見ずして信じたる者等は福なる哉。此外にも尙許多の異徴を 耶蘇は其弟子等の眼前に行ひたまひしかども、其は本書に記載す、惟以上の事等を書載せ、以て汝等をして 耶蘇は神の子 基督なりと云ふこ

とを信せしめ、且汝等に信じて彼の名に藉りて生命を獲せしめんと欲する耳。

(九 頁)

使徒信經
奉獻誦

主の使天より降りて、婦人等に告げけらく、汝等が尋ぬる者は、彼が嘗て語れる如く甦へれりと。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十 頁)
微唱禱

主よ、願くは主の聖會が歡喜の中に、主に獻け奉つる供物を饗けたまへ。主が大なる喜悅の主因を彼に與へた

まひし如く、終りなき福祉の果を彼に授け給はんことを。
我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。 亞孟。

序誦 (十二頁)

司祭典文を読む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱(十四頁)

聖體奉舉の時の禱 (十五頁)

聖體奉舉後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

汝の手を伸べ、釘の痕を見よ。 慶哉。 而して信ずるに
吝なる勿れ、信せよ。 慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

我等の主なる主よ、我等主に祈り奉つる。 願く
は我等が再生の恩寵に於て確められん爲め、主の設定た
まひし聖き機密が、現在及び未來の爲に、我等の靈藥た
らんことを。我等の主 耶蘇基督に依て冀ひ奉つる。 亞孟。

掩祝の時の禱 (二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を読む時

の禱

(二十一頁)

聖會の爲の禱

讀誦彌撒の時に限る (二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)



○御復活後第二主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

地は 主の愛憐以て充實されぬ。 慶哉。 諸の天は其言

に由て造られき。 慶哉、 慶哉。 義者よ、 主の許にて歡べ。 主を讚稱まつるは、 是ぞ正き心の者に歸す。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

嗚呼 天主、 主は打倒されたる世界を、 聖子の謙遜に 藉て恢復したまへり。 仰ぎ願くは、 主が永久の死より援 ひ給ひし者等の、 終りなき福祉を樂まん爲め、 主の信徒 に無窮歡喜を與へ給はんことを。 我等の主 耶蘇基督に 依て祈求め奉つる。 亞孟。

伯多祿書第一 二章廿一節

我^{われ}最^もと愛^{あい}する兄弟^{きょうだい}よ、耶蘇^{イエズス}基督^{キリスト}は我等^{われら}の爲^{ため}に苦^{くるしみ}を受け
 たまへり。彼^{かれ}は一^{ひと}の罪^{つみ}を犯^{かか}したることなく、其^{その}口^{くち}に詭譎^{いつはり}
 を言^いしことなかりき。彼^{かれ}は我等^{われら}をして其^{その}趾^{あし}を踏^ふみ行^ゆかせ
 んとて、此^かく例^{たとへ}を遺^{のこ}したまへり。彼^{かれ}れ虐待^{しいたげ}を受けて、厲^{はげ}
 言^{ことば}を發^{いた}さず、詬罵^{そしり}を蒙^{あび}て、沈黙^{ちんもく}を守^{まも}り、唯義^{ただぎ}を以^もて鞠^{まは}く
 者^{もの}の權^{けん}に託^{たく}せ給^{たま}ひき。十字架^{じよじか}の上^{うへ}に、我等^{われら}が罪^{つみ}の苦^{くるしみ}を任^{まか}
 したまひしは彼^{かれ}なり。是^こは我等^{われら}が不義^{ふぎ}を棄^{すて}て、義^ぎの爲^{ため}に
 活^いんが爲^{ため}也^{なり}。汝等^{なんぢら}の醫^いされたるは、彼^{かれ}の疵傷^{きず}に藉^よてなり、
 蓋^{けだ}し汝等^{なんぢら}は迷^{まよ}へる羊^{ひつろ}の如^{ごと}くありしが、今^{いま}や汝等^{なんぢら}は、牧者^{ぼくしや}

と其^{その}靈^{たま}魂^{しほ}の司^し牧^{ぼく}なるもの^{もの}に衛^{まも}らるれを^をなり。

昇階誦

慶哉^{アレルヤ}、慶哉^{アレルヤ}。弟子^{でし}等^らは麪包^{パン}の分與^{わかち}に於^おて、主^{しゆ}なる 耶^{イエ}
 蘇^{スス}を認^{みと}識^めたり、慶哉^{アレルヤ}。我^{われ}は善牧者^{ぜんぼくしや}なり、予^{われ}我^{われ}羊^{ひつろ}を知^しり、我^{われ}
 羊^{ひつろ}も亦^{また}予^{われ}を識^しる。慶哉^{アレルヤ}。

聖約翰福音書 十章十一節

維時^{そのとき} 耶蘇^{イエズス}フハリゼオ徒^{びと}に言^いたまはく、我^{われ}は善牧者^{ぜんぼくしや}な
 り、善牧者^{ぜんぼくしや}は其^{その}羊^{ひつろ}の爲^{ため}に己^{おのれ}の生^{いのち}命^{めい}を予^{あた}ふ。然^{しか}れども備^{たも}れ
 たる者^{もの}、牧者^{ぼくしや}に非^{あら}ざる者^{もの}は、羊^{ひつろ}れのれのに非^{あら}ざれを、豺^{おと}
 狼^かの來^{きた}るを見^みるや、羊^{ひつろ}を棄^{すて}て逃^にぐ、而^{しか}して豺^{おと}狼^か乃^{すなは}ち羊^{ひつろ}を

攫み、且散すなり。備はれたる者は則ち備はれたる者に
して、羊の爲に憂へざるが故に逃ぐる耳。我は善牧者な
り、我は吾が「羊を」識り、吾が「羊は」我を識る。恰も父
の我を識り、我の父を識る若し、我は吾が羊の爲に己の
生命を捐つ。此牢欄に屬せざる他の羊を我は有てり、彼
等をも亦我は引き來らざる可らず、彼等わが聲に聽従は
ん、而して一の牢欄、一の牧者あらん。

(九 頁)

使徒信經

奉獻誦

嗚呼 天主、主は我神にて在ます。我黎明以來主を渴

仰す。我主の聖名を呼つ、我手を舉げん。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧る時の禱 (十 頁)

微唱禱

主よ、願くは此聖き供物が其功德に由て、此聖祭を祝
するの効果を生ずるやう、主の掩祝を常に我等に獲しめ
んことを。我等の主 基督に依て謹んで主に願ひ奉つる。
亞孟。

序誦

司祭典文を讀む時の禱 (十二 頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十三 頁)

聖體奉擧の時の禱

(十五頁)

聖體奉擧後の禱

(十五頁)

主禱文

(十七頁)

神羔誦

(十八頁)

聖體を領るを望む禱

(十八頁)

聖體受領の時の誦

我は善牧者なり、慶哉。我吾が羊を知り、我羊亦我を

識る。慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

全能の天主、若し聖意に適はり、願くは我等をして、

聖寵に由り、新たなる生命を享け、其靈魂に於て恒久樂
ましめ給はんことを。我等の主 基督に依て冀ひ奉つる。
亞孟。

掩祝の時の禱

(二十頁)

司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

の禱

聖會の爲の禱

彌撒後の禱

○御復活後第三主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

地上の住民よ、歡び呼はれ、慶哉。天主の榮光を謳歌
ふべし。慶哉。汝等己の榮譽として 天主を祀り奉つれ、
慶哉、慶哉、慶哉。(詩)天主に白せ、主よ、如何に主の處
業は怖るべき哉、主の稜威は其仇敵なる欺誦を罪せりと。
(榮誦)願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六頁)

集禱文

嗚呼 天主、主は迷路に彷徨ふ侶輩が、眞道に還り得
ん爲め、彼等に主の眞理の光明を顯示したまへり。仰ぎ
願くは奉教者たる幸福を獲し者に、其名に背けるものを
避け、彼に適應する凡てのものに従ふの恩寵を降し給はん
ことを。我等の主 耶蘇基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

伯多祿書第一 二章十一節

我最愛する者よ、我汝等に勸む。汝等は寓客、又旅人
の如く、靈魂に逆ひて闘ふ肉の慾を去るべし。異邦人の

中に在りては、非難されざる行爲をなすことに注意せよ。
 是れ汝等が悪を爲せるかの若くに汝等を誘ふに代て、汝
 等の善行を認め、神の臨みたまふ日に、神を崇めしめん
 爲也。されど神の尊前に、人間の中に立られたる凡ての
 權に服へ。或は最上に在る王、或は惡を作す者を罰し、善
 を行ふ者を扶くる爲に、彼より遣はされたる司伯に服ふ
 べし。蓋し汝等が生活の神聖に由り、惡を掩ふに適せる
 覆布の如くならず、神の眞の僕として働作く爲に、汝等
 の自由を用て、愚なる無智なる人を黙さしむるは、神の
 欲みたまふことなれ也。凡てのものに對して、其者に

適へる敬を飯せよ。汝等の兄弟を愛し、神を畏れ、王を
 尊ぶべし。僕なる者よ、尊敬を盡して其主人に服ふべし、
 常に善者、柔和なる者にのみならず、暴虐者、苛刻者に
 も「服ふべし」蓋し這は我等の主 耶蘇基督に於て、神の
 聖意に適ふべき事なれ也。

昇階誦

慶哉、慶哉。主は其民に救贖主を遣りたまへり、慶哉。
 基督は苦難を受け、死者の中より復活り、而して榮光の
 内に入るべかりき、慶哉。

聖約翰福音書

十六章十六節

維時 耶蘇其弟子等に言たまはく、暫時せむ汝等はも
 はや我を見ざらん、而して復暫時せむ汝等は我を見ん、是
 は吾父へ我往んとす。是に於て其弟子等の中相互に言け
 るは、彼我等に宣ふらく、暫時せむ、汝等は我を見ざら
 ん、而して復暫時せむ、汝等は我を見ん、又我父へ我往
 かんすとす、是は何のことぞや。彼等遂に言けらく、暫
 時せむと宣へるは是れ何のことぞや、我等は其語りたま
 へる所の何たるを知らずと。然るに 耶蘇は彼等が已に
 問んと欲するを曉りて、之に言たまはく、暫時せむ汝等
 は我を見ざらん、而して復暫時せむ汝等は我を見んと我

が言ひしに因りて、汝等互に問あふ乎。誠に誠に我汝等
 に告ぐ、汝等は哀き且泣かん、然れど世は喜むん、汝等
 は憂悶へん、然れど汝等の憂愁は欣喜に變らん。婦女産
 んどするや、其の期の來れるに因りて、憂愁を懐けども、
 子を産み了るや、世に人の生れたるに因りて、もはや其
 苦痛を記憶す。斯の如く汝等も今こそは憂愁を懐け、我
 復汝等を見んとす、而して汝等の心は茲に喜むん、汝等
 の喜悅は誰も汝等より奪ふ者なけん。

使徒信經

奉獻誦

吁我靈よ、主を讚美し奉つれ、我生涯絶えず主を讚美せん、我世に在らん限り、我天主の讚頌を謳歌ひ奉らん。慶哉。

司祭麴餅と葡萄酒を捧ぐる時の禱 (十頁)

微唱禱

主よ、願くは我等が献げ奉つる聖祭の功德に由て、地上のものに對する我等の欲望を消し、天國の財寶に對する愛情を、我等の心に燃し給はんことを。我等の主基督に依て願ひ奉つる。亞孟。

序誦

(十二頁)

司祭典文を讀む時の禱 (十三頁)

司祭麴餅と葡萄酒に掩手する時の禱 (十四頁)

聖體奉擧の時の禱 (十五頁)

聖體奉擧後の禱 (十五頁)

主禱文 (十七頁)

神羔誦 (十八頁)

聖體を領るを望む禱 (十八頁)

聖體受領の時の誦

暫時せむ汝等は最早我を見ざらん、慶哉。而して復暫時せむ、汝等は我を見ん、是は吾父へ我往かんとすれむ也。

慶哉、慶哉。

聖體領後の禱

主よ、願くは我等の領け奉つれる秘蹟が、我等の爲に靈的滋養となり、我等の靈魂に新たなる生命を予へ、我等の肉體を、凡ての危難より防ぎ護り得んことを。我等の主 耶穌基督に依て冀ひ奉つる。亞孟。

(二十頁)

掩祝の時の禱
司祭々壇の左方に就き終りの福音を讀む時

(二十一頁)

聖會の爲の禱
讀誦彌撒の時に限る(二十二頁)

彌撒後の禱

(二十四頁)

○御復活後第四主日

彌撒拜聽前之禱

(三頁)

彌撒之始之禱

(四頁)

入進誦

主に對て新たなる賦を歌へ、慶哉。是れ主は奧妙なる諸物を作りたまひしに因る、慶哉。是れ主は國民の眼に其正義を彰はし給ひけれ也、慶哉、慶哉、慶哉。(詩)我

等を救ひたまひしは、是れ主の右座、主の右撃に在ます也。

(榮誦) 願くは聖父と聖子と云々

榮光之聖歌

(六 頁)

集禱文

嗚呼總の信徒を同じ精神に集めたまひし 天主よ、願くは主の民に、主が命じ給へるものを愛し、主が約し給へるものを望むの恩寵を降し給はんことを、是れ現世の有異轉變に處して、我等の心の動搖ぐことなく、其不動心に眞の幸福を發見さん爲なり。我等の主 耶蘇基督に

依て、我等恭く之を主に祈り奉つる。亞孟。

雅各甫書 一章十七節

我最愛する兄弟よ、凡ての秀たる恩寵と、凡ての完き賚賜とは、上より、諸の光明の父より降るなり。父には變ること無く、又變化の影もなし、彼れ眞實の言に藉て我等を生むを欲めり、是れ我等をして、其諸被造物の初て結べる果の如くならしめん爲也。是故に汝等聽くことに聽く、語ることに緩く又怒ることに徐からんことを、蓋は人の怒は神の義を行ふことをせざれ也。然れを諸の汚穢と、凡ての邪惡を捨て、從順を以て、汝等の心に植

られたる所の汝等の靈魂を救ひ得る言を受くべし。

昇階誦

慶哉、慶哉。主の右撃は其權威を現はせり。主の右撃は我を高めぬ、慶哉。基督は死者の中より甦り、以て往は死ぬことなし、死はもはや彼の上には權力なし。慶哉。

聖約翰福音書 十六章五節

維時 耶穌其弟子等に宣ふやう、今や我は我を遣はしたまへる者に往くなり、汝等の中誰も何處へ往きたまふやと問ふ者なき乎。却て我が此等の事を汝等に告げしに因て、憂愁は汝等の心に満てり。然し乍ら我は汝等に眞

實を告ぐ、我の往くは汝等に益す、如何となれむ、我若し去往かすむ、保慰師汝等に臨まじ、然と若し去往かむ我之を汝等に送らん。彼臨む時は、世をして自ら罪と公義と審判とを信認せしめん。罪をとは、其が我を信せざりに因りて也。公義をとは、我父に往き、汝等もはや我を見ざるべけれむ也。審判をとは、斯世の君すでに審判るゝに因て也。我猶汝等に告ぐべきこと多く有れども、汝等は今之に堪へず。然れども彼、眞理の靈きたる時は、一切の眞理を汝等に誨へん、如何となれむ、彼は自ら擅まに言ふに非ざれむなり、凡そ其聆ん處を彼は語らん、又